

年次報告書

一般財団法人 共益投資基金 JAPAN

2016 年度

(2015 年 10 月～2016 年 9 月期)

2016 年 12 月発行



(いわき「TATAKIAGE Japan」毎月開催のイベントにて)

「共益投資基金JAPAN」として体制および名称を変更し、将来起こりうる大規模災害への資金支援”を可能に

甚大な被害を出した東北の大震災からの、経済復興を実現するこれまでにない枠組みが必要、との確信から、震災 3 ヶ月後に準備室を立ち上げ、現地の調査を重ね、地域金融との協議や、投資先候補事業者との議論を経て、第一号案件とともに、2011 年 11 月に法人を創設し支援を開始、現在まで 5 年間支援を継続しております。

■「共益投資」という概念の展開

私たちは、復旧を超えた新たな経済モデルの創生を目指して、「共益投資」の概念を生み出し、事業者への支援活動を継続しています。雇用拡大や経済効果を生む新たな地場産業の中核事業者に、資金だけではなく、経営支援や販路拡大支援をフルサポートしています。またこの共益投資の考え方は東北震災復興支援のみならず全国、様々なターゲットに広がりを見せているものと考えております。

■二度の資金循環

また資金支援のスタートから 5 年後をめどに、支援した部分の資金を地域の主要事業者や金融機関にパトタッチしていき、

その償還した資金で、社会復興支援活動をする NPO に助成をする、という二度の資金循環を目指しています。そのために、今から資本を引き受けられることができる事業者等のプラットフォームの構築を目指しております。

■東北への息の長い復興への支援
皆様のご支援をいただき、東北における支援は 5 年が経過しました。今後も伴走支援を継続していく所存です。

■今までの経験とノウハウを今後のおこりうる大規模災害への対応を可能に
東北の震災復興支援から 5 年が経過した現在も、既存支援先はすべて事業をご継続いただいております。これらの経験とノウハウを今後起こりうる大規模災害への対応スキームとして迅速に活用できるよう、「共益投資基金JAPAN(略称以下:基金ジャパン)」と名称および体制を変更しふたたびスタートいたしました。引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

一般財団法人
共益投資基金 JAPAN

○これまでの 活動実績

<2011～2015 年:

既投資先案件と投資金額>

14 案件 16,400 万円

雄勝硯生産販売協同組合	3,000 万円
佐藤造船所	2,000 万円
及川電機	1,800 万円
ピースネイチャーラボ	500 万円
釜石ヒカリフーズ	1,300 万円
トラスト	1,000 万円
三陸いりや水産	1,000 万円
女川町宿泊村協同組合	500 万円
onagawa factory	500 万円
TATAKIAGE Japan	500 万円
有限会社ドウビー・ソーシャル事業部 (旧被災事業所復興支援室)	300 万円
オンザロード	1,000 万円
カシワダイリンクス	2,600 万円
dreamLab	400 万円

○今年度の活動、投資実績・効果について



【今年度の活動】

本年度も、引き続き、雇用拡大や経済効果を生む新たな地場産業の中核事業者に、資金と経営支援や販路拡大支援等を継続し、事業活動のサポートを実施してまいりました。その結果今年度まではすべての支援先が事業をご継続いただいております。既存先で取り組みました事項は以下の通りです。

○既存 14 案件のバリューアップ継続

○社会的投資管理指標 (KPI) を共有しての管理継続

○既存支援先からの一部償還実行検討

⇒2 件継続検討中、償還の実行は次年度になる予定

また前述しましたが、現在までの経験とノウハウを今後起こりうる大規模災害に対応すべく、名称および体制を変更いたしました。今後ともご支援のほどなにとぞよろしくお願いいたします。

【これまでの投資効果】

<売上高の拡大(2014 年度までの支援先 10 件合計)>

各案件支援スタート時
(創業案件はゼロとする)



現在



<雇用の維持と拡大(昨年度までの支援先 12 件合計)>

各案件支援スタート時



現在



<現在までに支援先が金融支援や助成金、義捐金等をいただいた金額合計>

1,075百万円

皆様のご支援、各支援先のご努力、追加支援の輪の拡大の循環で、現在まで支援先合計で上記のような効果が表れてきております。その他定性的な各案件の地域貢献含む共益投資の広がりには各件のご報告をご参照ください。

○今後の方針 検討中案件について

【目的・目指すゴールと現状】

基金のスタート時点では、数年間(当初想定は2016年まで)はいただいた寄付を原資として、東北被災地域における事業再生および起業に資金支援および、人的なサポートを実施継続することを想定しておりました。支援スタートから5年を経た現在までの資金支援実行先は14件となり、それらすべての支援先が現在まで事業を継続していただき、皆様の一定の事業拡大と地元雇用の確保および拡大に微力ながら寄与させていただけたものと考えております。

今後はもう一つの基金設立の目的の柱である、二度の資金循環の実行をめざし、支援先の事業毎に収支改善が見え、償還が可能となった段階で、可能な限り当初の資金支援分までの償還を受け、最終的には経営陣および地元資本にエグジットすることで、当該事業者が地元資本の地元の人が運営する会社として持続していくことを目指しております。償還の最大期間は10年を想定しており、その期間中に償還を受け、償還資金はその時点で社会的な事業を継続されているNPO団体等に寄付することを想定しております。東北の支援先から償還を受けた資金は、その時点で東北にて活動されている団体に助成いたします。実際の償還は来年度から一部実行されることを目指しております。

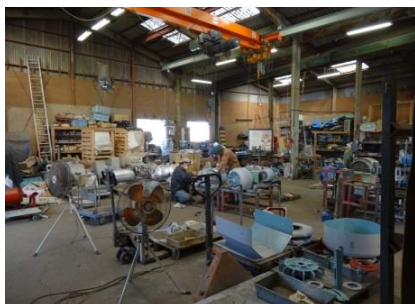
【今後の課題】

東北においては、震災から5年を経過した時点において、社会全体の関心がますます低下している傾向にあります。一定のインフラの復興は達成されたものと考えておりますが、本当の意味での経済的基盤の復興はまだ途上であると考えており、点としてではなく面としてのバランスがとれた地域全体の復興の達成をめざして、継続支援を実施していく所存です。基金の支援する各案件につきましては、決算書等の数値の観点から確認させていただくと、大幅な売り上げ向上を達成されている先と、収支が震災前の数値まで依然として改善できていない先とのばらつきがより明確化されているのが現実になっており、各事業運営の改善は道半ばであるのが現実と考えております。各支援先が本当に必要とされているサポートを継続し、先方の意向をベースにした将来方針を協力して作成の上、実行することを今後も続けてまいります。

【今後の計画】

東北においては、まずは2度の資金循環の実行を達成することを目指しております。東北の支援先から償還を受けた資金を東北で活動を継続されている団体に助成することを実行いたします。

また基金ジャパンとしてスタートした現在、熊本の震災における支援実行についての、フィジビリティスタディーを実施しており、これまでの東北の震災復興に活用したスキーム、体制での資金支援等の実行が、どのように今回の震災からの復興支援にお役にたてるかを検証しております。熊本で具体的な支援が実行できましたらまたお知らせいたします。基金ジャパンとして、今後は対応すべき大規模災害毎に可能であれば基金を設定し、現在までの経験とノウハウを迅速に活用し、それぞれの復興に資するよう共益基金モデルを活用していくことを想定しております。



○基金のこれまでの取組み

～2011年～

- 11月 一般財団法人 東北共益投資基金設立
- 12月 一号案件「雄勝硯生産販売協同組合」発表

～2012年～

- 1月 二号案件「佐藤造船所」発表
- 2月 「ユニクロ 復興応援プロジェクト」
協働パートナー決定
- 3月 三号案件「及川電機」発表
- 4月 復興起業キャピタル発表
- 5月 四号案件（復興起業キャピタル一号案件）
「ピースネイチャーラボ」発表
- 6月 復興金融円卓会議準備会、
共益投資サロン第一回開催
- 7月 「三陸リアス復興資本」の環発表 &
五号案件（三陸リアス復興資本一号案件）
「釜石ヒカリフーズ」発表
- 10月 六号案件「トラスト」発表
- 11月 七号案件「三陸いりや水産」発表
- 12月 八号案件「女川町宿泊村協同組合」発表

～2013年～

- 1月 九号案件（復興起業キャピタル二号案件）
「株式会社 onagawa factory」発表
- 6月 十号案件「NPO 法人 TATAKIAGE Japan」発表
- 7月 十一号案件（復興起業キャピタル三号案件）
「被災事業所復興支援室」発表

～2014年～

- 10月 一二号案件「オン・ザ・ロード」発表

～2015年～

- 1月 一三号案件「カシワダイリンクス」発表
- 3月 一四号案件「dreamLab」発表

～2016年～

- 4月 「共益投資基金JAPAN」に名称および体制を変更

投資先地域



○各支援先の状況報告

第1号案件

雄勝硯協同組合（宮城県石巻市）

～伝統工芸雄勝硯職人の後継者育成に取り組む～

概要

代表者：澤村 文雄(理事長) 業 種：工芸品製作
支援策：資金+アドバイザー派遣 投資額：3,000万円
サイト：<http://www.ogatsu-suzuri.jp/>



震災から時が経つにつれ、復興支援を趣旨とした注文やご支援、また行政からの補助金の類も、段々と先細りしています。当然のこととは言え、自立継続可能な事業としての確立を目指しつつもいまだ道半ばの組合にとっては、大変苦しい状況です。市場への訴求活動に力を入れてはいるものの、マンパワーおよび資金面からも、戦略的に大きな一手を打つには至れず、日和見な事業推進を免れない現状です。

一方で、かねてよりの重要課題であった職人後継者問題については、将来の硯職人として若手数名の育成を開始し、技術の継承に取り組んでいます。日常業務と並行して行わざるを得ないため、技術習得に一層の時間を要することは免れませんが、一日も早く「硯職人」となるべくノミを手にかけています。



理事長・澤村文雄氏 ひとこと

硯の伝統を担うという社会事業としての組合運営は、ようやく職人育成の着手にもこぎつけ、ひとまずの安心を得ております。しかしながら、営利事業としての状況は極めて厳しく、積極的な販売活動の推進と早急な成就が不可欠な状況にあります。引き続きのご支援をよろしくお願い致します。

第2号案件

佐藤造船所（宮城県石巻市）

～作業敷地・工場施設の竣工を目指す～

概要

代表者：佐藤 文彦（代表取締役） 業 種：特殊船舶の修理・整備
支援策：資金 投資額：2,000万円



皆様、大変お世話になっております。お陰様で、震災から施設設備の復旧復興に向け、多くの皆さまから温かいお力添えを頂き、今日を迎えることが出来ております事、心から感謝申し上げます。昨年3月中旬以降、紆余曲折を経て、今年の8月末に作業敷地・工場施設工事が始まり来年3月の竣工を目指し、今できる事を一つひとつ積み上げて前に進んでおります。

現在の状況は、敷地北側では工場施設工事、敷地中央東側では行政工事の山手への道路の付け替え及び防潮堤の一部線引きの変更に伴う山の掘削が行われています。

今後は、この工事の進捗状況を見ながら作業敷地全体のコンクリート舗装及び工場施設工事を年内に完了させ、年明けには行政検査、そして、上下架設備等の調整・上下架作業の実地訓練を行い、一日でも早い事業の再開に繋げて行きます。しかしながら、懸案事項として当所地区全体、特に事業敷地に隣接する防潮堤工事等の完成までには1年以上かかる為、しばらくは事業活動に大きく影響を受ける状況にあります。



代表取締役・佐藤文彦氏 ひとこと

現状ある課題と真摯に向き合い、今できる事を一つひとつ積み上げ、必ず場を整えてスタートラインに立ちます。今後とも宜しくお願い致します。ありがとうございます。最善を尽くします。

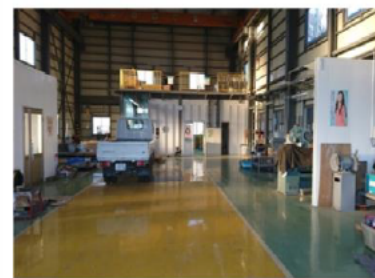
第3号案件

及川電機 (宮城県石巻市)

～受注順調なるも引き続き人材確保定着目指す～

概要

代表者: 及川 幸八(代表取締役)	業種: 船舶電気機器・艀装
支援策: 資金+アドバイザー派遣	投資額: 1800万円



弊社も皆様のおかげで、5年という一つの節目を越えることができました。震災からの復旧復興を目指して社員一同がむしゅらに進んで参りましたが、やはり5年という月日は長く、疲れが出たのでしょうか。今期は様々な意味で試練の年度となりました。

前年度から続いておりました雇用情勢の不安定さに歯止めがかからないことに加え、非常時だからと目を瞑っていた様々な摩擦が表面化し、人材の確保、育成もままならない状態が続いております。

ありがたいことに、船舶電装、陸上電機共に堅調で受注そのものは前年度の水準を維持することができましたが、人手の不足から他社の手をお借りすることも増えてしまいました。

来期は、今期の反省を踏まえて新たな組織作りに取り組むと共に、何としても新しい人材の確保定着を目指したいと考えております。



専務取締役・及川雅貴氏 ひとこと

震災から5年が過ぎ、真価を問われる時期に入りました。これからが本番と心に刻み、精進していきたいと思ひます。

第4号案件

トラスト (宮城県亘理郡)

～早期黒字化を目指し営業強化～

概要

代表者: 丸子 孝市(代表取締役)	業種: 電子回路基板製造業
支援策: 資金+アドバイザー派遣	投資額: 1000万円



株式会社トラストは、宮城県亘理郡でプリント基板製造装置の中古機械販売・保守を手がけてきました。大手メーカーから認証を受ける高い技術力を持っています。

震災により工場が多大な被害を受けましたが、震災後は中古機械販売事業に加えて表面実装事業を開始しました。中古機械販売事業は比較的堅調で菅、表面実装事業に於いては携帯電話、自動車関連等での受注があるものの赤字の状態が続き財務内容を圧迫しています。

従業員30名の雇用を守るためにも、同事業の早期黒字化を目指し、関東圏での営業活動を強化するなど経営努力を図っています。



社長・丸子孝市氏 ひとこと

震災以降、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。東北地域全体でエレクトロニクス関連の仕事が低迷する中、新規事業である表面実装事業は苦戦を強いられています。営業活動を強化し早期の黒字化を目指しています。引き続きご支援よろしくお願ひいたします。

第5号案件

女川町宿泊村旅館組合（宮城県牡鹿郡女川町）

～利用客増加、復興に合わせた移転も視野～

概要

代表者：佐々木 里子（理事長） 業 種： 宿泊施設運営
支援策： 資金 投資額： 500 万円
サイト： <http://elfaro365.com/>



トレーラーハウス40棟で運営しております「ホテル・エルファロ」もまもなくオープン4年を迎えます。夏にはビアガーデンやバーベキューなどのプランもリクエストが増え、団体お客様のご利用も増えております。

また、昨年3月にJR女川の再開を機に、交通の便が良くなったと喜ばれております。復興に合わせ、トレーラーハウスも移動する計画もあり、行政の方々と慎重に打ち合わせを進めております。

理事長・佐々木里子氏 ひとこと

ホテルご利用のお客様にリピーター様が増え、年々変わってゆく女川の復興を心より喜んでくださっており、いつも励まされます。心よりありがとうございます。

第6号案件

釜石ヒカリフーズ（岩手県釜石市）

～商品開発進め、今後第二工場の建設課題～

概要

代表者：佐藤 正一（代表取締役） 業 種： 水産加工業
支援策： 出資+アドバイザー派遣 投資額： 1300 万円
サイト： <http://www.hikarifoods.jp/>



釜石ヒカリフーズ株式会社は、震災後岩手県釜石市で起業された水産加工会社です。仕入れの7割を占める、東北地域で水揚げされたタコ、イカ、鮭、ワカメなどを最先端の冷凍設備と加工技術により、大手外食チェーン、小売業、生協などに販路を開拓、現在33社の取引先を抱えています。

今後は、水産大学校（農林水産省）・東京海洋大学・岩手大学との鯖の畜養事業、ウニ、ホタテの商品化など、一層の商品力の強化を図る予定です。事業の拡大に伴い、来年以降は第二工場の建設も課題になってきています。

社長・佐藤正一氏 ひとこと

震災以降、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。震災後新たに起業し、新工場が稼働して4年が経過しました。おかげさまで30社を超える取引先を抱え、地元の新卒採用を含めて25名ほどの雇用の創出にもつながりました。今後ともご支援よろしく願いいたします。

第7号案件

三陸いりや水産 (岩手県釜石市)

～地元業者との連携による新会社設立、商品開発推進～

概要

代表者: 宮崎 洋之 (代表取締役) 業 種: 水産加工業
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1000 万円
サイト: <http://www.sanriku-ilya.jp/>



三陸いりや水産株式会社は、大手外食企業の欧州事業責任者であった宮崎社長により、震災後岩手県釜石市で起業された水産加工会社です。地元で水揚げされ、比較的市場価値の低い地魚を活用した「三陸ブイヤース」など商品開発に定評があり、健康食品材料として鮭白子の買付・卸売業も行っています。

また、当社を含む地元企業6社と漁業者が連携して「釜石6次化研究会」が発足しKAMAROQ株式会社を設立されました。第一弾商品として、当社が商品開発・製造を担う「釜石海まん」が発売されました。



社長・宮崎洋之氏 ひとこと

震災以降、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。被災事業を継承した鮭フレーク加工事業は、従業員の高齢化・引退の時期を迎え、本年夏をもって事業を停止しました。震災後5年間、一定の雇用確保に貢献できたと考えています。今後は、引き続き、地元の農水産物を活用した商品開発を通じて、地域の発展に貢献していきます。今後ともよろしくお願いたします。

第8号案件

ピースネイチャーラボ (宮城県気仙沼市)

～引き続き海辺カフェの活用に工夫～

概要

代表者: 畠山 信(代表理事) 業 種: 水産加工業
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 500 万円



新設された海辺の木造小屋『Switch』を活用し、海産パエリアが食べられるカヌーツアーや、牡蠣の水揚げができるカヌーツアー、スタンドアップパドル体験等も始めました。また、支援団体とコラボし、クラシックコンサートを開催。夜の幻想的な風景とクラシック音楽を楽しむことができました。また、企業様の学びツアーの受入れ等も実施し、ゆったりとくつろいでいただける場所の提供が始まっています。

組織体制を整え、より多くの方々にお越しいただけるようにしたいと思います。



代表理事・畠山信氏 ひとこと

地域全体の動きとも連動し、被災沿岸部を盛り上げていきたいと考えております！

第 9 号案件

オナガワファクトリー (宮城県牡鹿郡女川町)

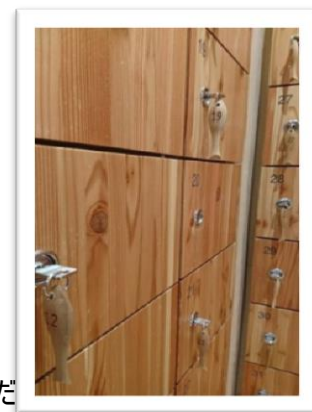
～引き続き商品開発すすめ女川の魅力伝える～

概要

代表者: 湯浅 輝樹 (代表取締役) 業 種: 工芸品開発・販売

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 500 万円

サイト: <http://ameblo.jp/small-rebuild-project/>



震災から 6 年目の現在、支援からの完全独立が求められ、また、自社の今後の動向が見据えた活動が急務となってきている。

そのような状況下、当社においては、自社製品を町の代表的な土産品として確立させるべく、新しくできた女川駅に併設されている温泉保養施設“ゆぼぼ”の下足キー用のキーホルダーを提供し、話題となった。同時に施設内の売店でも販売をお願いし、土産品としての知名度が上昇してきている。また、代表が個人的に取り組んでいる柚子農園の、数年後に可能となる出荷を見据えて、柚子を使ったチーズケーキの開発や柚子入りソーセージの開発、調味料などの開発の準備を始めており、数年後、完全な六次化を可能とする企業体を目指し、新たなスタートラインに立った。

代表取締役・湯浅輝樹氏 ひとこと

震災から生まれた産業の確立を目指すことは、自社のみならず、街全体を見据えた活動が必要であるので、町が良くなる企業体を目指します。

第 10 号案件

TATAKIAGE Japan (福島県いわき市)

～地元発信力のある人材発掘と育成を推進～

概要

代表者: 松本 文 (代表理事) 業 種: 起業家育成、コワーキングスペース運営

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 500 万円

サイト: <http://www.tatakiage.jp/>



地域プレーヤーの発掘と育成を進めるために 2015 年 8 月に開始したプレゼン&プレストイベント「浜魂(ハマコン)」は、毎月 1 回ずつの開催を重ね、14 回(2016 年 10 月現在)を数えるまでになりました。これにより、総勢 50 名以上の登壇者と 1000 人近くの市民が応援者として参加し、地域のアクションが数多く輩出されるようになりました。(詳細は、浜魂HP: hamacom.jp 参照)

同時にタタキアゲジャパンの会員も正会員が 10 名以上、賛助会員が 30 名以上増加。団体としての基盤が強固なものになるとともに、アクションをするコミュニティができ、その拠点としてコワーキングスペースの利用も増加しました。2016 年 9 月の利用状況は、月額契約会員 3 団体、個人でのスポット利用 189 名でした。こうした中、地域での団体の認知度が上がるにつれ、行政や大学、企業とのコラボレーションも増え、活動の幅や地域で求められる役割も変化してきております。

これからも福島から日本を変えるべく市民を巻き込み楽しみながら、アクションを起こす人財・応援する人財を増やしていきますので、引き続きご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。

理事長・松本文氏 ひとこと

浜魂(ハマコン)を通して、地域にアクションを起こす人、それを応援する人のコミュニティが出来てきたことで、コワーキングスペースの利用者が増えたり、活動の幅が広がったりしております。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

第 11 号案件

有限会社ドウビー・ソーシャル事業部(旧被災事業所復興支援室)(宮城県石巻市) ～太陽光発電事業での売上を活用し人材育成に貢献～

概要

代表者: 古藤野 智 (代表理事) 業 種: 太陽光発電事業

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 300 万円

サイト: <https://www.facebook.com/saiseinomatikikin>



「再生の街プロジェクト」は石巻市の被災企業 4 箇所が再興した事業所の屋根上で行っている太陽光発電・売電事業の売り上げを基金化し、被災地のジュニアタレントの育成支援を行っている活動です。

2016 年も年間 100 万円ほどの売り上げがあり、3 名のジュニアゴルファーに対し、遠征費を拠出することができました。

平塚新夢さんは去年に引き続き、4 つの世界大会に出場、世界の舞台で活躍しています。

また、今年は新しく高校三年生の郡山瞳さん、同じく今野匠君が国内予選を勝ち抜き、IMGAの世界ジュニア選手権へ出場しました。

これからも被災地の才能の開花に寄与できるよう活動していきます。

代表パートナー・古藤野智氏 ひとこと

基金様のご支援で息の長い活動が出来ています。これからもご指導よろしくお願いします！

第 12 号案件

オン・ザ・ロード (宮城県石巻市)

～施設利用による人材交流を深め被災地活性化を目指す～

概要

代表者: 高橋 歩 (代表理事) 業 種: ゲストハウス・コミュニティスペース運営

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1000 万円

サイト: <https://otr.or.jp/>



ロングビーチハウスでは、石巻の特産物を使用したスペイン料理レストランや、被災地にはまだまだ少ない宿泊施設、地域活性化に向けた多種多様なイベントの運営を行っています。イベントには、これまで約200名の方に参加していただきました。

オープン1年を迎えた現在は、地元の方の雇用を始め、新しい仲間と共に弊施設を運営中です。また、石巻を訪れた県外の方とご近所の地元の方が繋がる機会も日々創出されており、石巻が賑わう一助を担っています。

今後は、石巻の若者が主体となって、多方面からの石巻を活性化できる活動プログラムを提案していきたいと考えています。石巻に住む人々のさらなるコミュニティの形成、被災地の活性化を目指していきます。

事務局長・岡本舞子氏 ひとこと

この施設は、単なる複合施設ではなく、全世界の方々が楽しんでいただける要素を持ち合わせています。震災後、移り住んだ沢山の若人や住民の方々とのコミュニティが今、生まれています。復興の象徴となるような場所創りを永続的にを行い、未来を担っていきます！応援よろしくお願い致します。

第 13 号案件

株式会社カシワダイリンクス（広島県神石郡） ～福島原発避難者による他地域での牧場経営～

概要

代表者：相馬 幸香(代表取締役) 業 種：牧場経営・乳加工品製造・販売事業
支援策：資金 投資額：2,600 万円
サイト：<http://www.somas-ranch.com>



皆様にご支援をいただき昨年酪農事業を開始することが出来ました。心より感謝しております。昨年は体験型テーマパーク「神石高原町ティアガルテン」へ商品の搬入を主としておりましたが、園内のソフトクリームショップを直接運営を開始しました。また加工商品群も増えてまいりました。

神石高原町犬の殺処分をゼロにするという活動を続けるために、ふるさと納税という制度をうまく活用しております。そのふるさと納税の返礼品にもご指定をいただき、多くの皆様にご賞味いただくことができるようになりました。

来年からは搾乳頭数も増えてまいります。今年もスタッフに新しい方も加わっていただきましたが来年も引き続き新しい方を募集し続ける予定です。

牧場長・相馬行胤氏 ひとこと

地域の皆様との交流の場も増えてまいりました。地域の皆様に大事にさせていただきながら引き続き精進してまいりたいと思います。

第 14 号案件

株式会社 dreamLab（福島県いわき市） ～子どもの成長促すプログラムを充実～

概要

代表者：小川 智美 業 種：学童保育事業（人材育成教育事業）
支援策：資金 投資額：400 万円
サイト：<http://d-l.jp/>



ドリームラボを設立して、1 年が経ちました。ドリームラボは、学びの場・自分たちで課題を発見し解決する場・自己肯定感を育てる場として、いろいろなプログラムを子どもたちに提供してきました。

現在、アフタースクールでは、子どもたちがやりたいことを自分たちで計画し、実行するような環境を作っています。例えば、料理の際には、自分たちでメニューを決め、レシピをインターネットで検索、予算内で買い物をし、調理をしています。自ら考え、行動することが徐々にできるようになってきました。また、レゴマインドストーム EV3 を使ったロボット教室では、子どもたちは、今まで点だった知識が線となって、さらにプログラミングの楽しさを実感しています。

9 月には、WRO (World Robot Olympiad) の全国大会に参加しました。子どもたちは、新しい刺激を受け、さらに上を目指して切磋琢磨しています。

代表取締役・小川智美氏 ひとこと

子どもたちの好きなこと、興味のあることをどんどん学べる環境をスタッフ一同、作って参ります。

○2016 年度 収支報告、助成金内容

共益投資基金 JAPAN の収支報告をします。経理処理は、外部税理士によって行われ、その正確性、公正性については、理事会および評議員会、監事によって確認をされています。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

区分・項目	2016 年度実績		
人件費	372		
	事務局の運営に対応する人件費	210	
	支援案件の各種業務に対応する人件費	162	
旅費(事務職員等)	6		
広報活動・WEB 管理費	7		
事務所費および投資業務推進費	113		
	事務所費	通信費・備品費、水道光熱費、家賃等	
	投資業務 推進費	投資業務推進に係わる旅費・会議費	
		89	
		24	
バリューアップ支援費	外部専門家による調査や各種支援の委託費		
		48	
合計			546

(単位:万円)

弊団体に対して、設立当初より合計 500 万円以上のご寄付をいただいた法人・個人は、以下の通りです。ご支援、誠にありがとうございます。

2011 年からの合計額

- ・公益社団法人 Civic Force: 1 億 5,552 万円
- ・九州郵便局長協会: 3,000 万円
- ・株式会社 ユニコロ: 6,220 万円 (ユニクロ復興応援プロジェクトより)

【一般財団法人 共益投資基金 JAPAN】(2016 年 4 月より名称変更しました)

所在地 東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12 富ヶ谷小川ビル 2 階

問合わせ TEL:03-3466-3676、e-mail:info@kyoueki.jp

基金ホームページ <http://kyoueki.jp/>

＜参考＞共益投資基金 JAPAN のご紹介

被災地の中小の事業者の再起においては、金融機関や行政の資金供給だけでは十分に応えきれない現実があります。サプライチェーンやバリューチェーンが大きな打撃を受ける中、旧来の産業の単なる復旧を超えた、地域のつながりを新生する新たな地場産業モデルを創出していく必要があります。

2011年の東日本大震災をきっかけに設立した「東北共益投資基金」は、被災された企業の皆さんにビジネススキルとともに資金的な支援の手を差し伸べることで復興を具体的に支援し、数年後に事業が順調に立ち上がって可能な限り償還していただいたものを原資として地域で活動するNPOへ助成する「二度の資金循環」を目的に立ち上がり、現在までで14案件1.64億円の支援を実施いたしております。

2016年より生まれ変わった「基金ジャパン」は、大規模被災地域における復興支援の仕組み「共益投資」のノウハウを他の地域にも展開し、災害大国の日本における地域経済の復興に寄与して新しい地域経済をリードする共益事業を支援してまいります。

■基金のフレームワーク



1. 新たな地場産業モデル創出支援

新しい地域経済をリードする「共益事業」に積極投資し、(資本性のある資金の提供)、コミュニティ新生も視野に入れた地域活動の広がりをめざします

2. バリューアップ支援

資金の提供だけではなく、地域固有の価値を發揮できるよう、ノウハウ提供・経営支援でバリューアップを図ります

3. 二度の資金循環

「共益経済」の実現に向けて、5年をめぐりに地元へ資本をパトタッチ、償還された資金を次の課題へ再投資します(NPO等への助成)

第5事業年度
(平成28年度)

決算報告書

一般財団法人 共益投資基金JAPAN

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
 貸借対照表
 平成28年9月30日現在

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,858,226		
前払費用	0		
流動資産合計		1,858,226	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0		
(2) 特定資産			
特定資産合計	0		
(3) その他固定資産			
投資有価証券	164,000,000		
差入保証金	419,509		
その他固定遺産合計	164,419,509		
固定資産合計		164,419,509	
資産合計			166,277,735
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	193,217		
預り金	2,927		
流動負債合計		196,144	
2. 固定負債			
固定負債合計	0		
負債合計		0	196,144
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産		3,000,000	
(うち基本財産への充当額)		(0)	
2. 一般正味財産			
一般正味財産		163,081,591	
正味財産合計			166,081,591
負債及び正味財産合計			166,277,735

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
 正味財産増減計算書
 平成27年10月1日から平成28年9月30日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 事業収入		
業務受託収入		2,520,000
② 受取寄付金		
受取寄付金		0
③ 受取助成金		
受取助成金		0
④ 雑収益		
受取利息	305	
雑収益	0	305
経常収益計		2,520,305
(2) 経常費用		
① 事業費		
給与手当	0	
旅費交通費	271,428	
通信費	392	
会議費	7,880	
賃借料	0	
光熱水料費	0	
消耗品費	0	
租税公課	350	
委託費	2,104,170	
事業費計		2,384,220
② 管理費		
役員報酬	0	
給与手当	0	
旅費交通費	15,084	
通信費	74,073	
会議費	0	
賃借料	547,768	
光熱水料費	42,288	
消耗品費	14,070	
租税公課	194,400	
広報活動費	74,736	
支払手数料	19,872	
委託費	2,099,370	
管理費計		3,081,661
経常費用計		5,465,880
当期経常増減額		-2,945,575
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益計	0	0
(2) 経常外費用		
経常外費用計	0	0
当期経常外増減額		0
当期一般正味財産増減額		-2,945,575
一般正味財産期首残高		166,027,166
一般正味財産期末残高		163,081,591
II 指定正味財産増減の部		
指定正味財産期首残高		3,000,000
指定正味財産期末残高		3,000,000
III 正味財産期末残高		166,081,591

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券 …… 時価のないもの：取得原価法によっている。

(2) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
収支計算書
平成27年10月1日から平成28年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 事業収入			
業務受託収入		2,520,000	-2,520,000
② 受取寄付金収入		0	0
受取寄付金収入		0	0
③ 受取助成金収入		0	0
受取助成金収入		0	0
④ 雑収入		305	-305
受取利息収入		0	0
雑収入		0	0
事業活動収入計	0	2,520,305	-2,520,305
2. 事業活動支出			
① 事業費支出			
投資有価証券取得支出		0	0
給与手当支出		0	0
旅費交通費支出		271,428	-271,428
通信費支出		392	-392
会議費支出		7,880	-7,880
賃借料支出		0	0
光熱水料費支出		0	0
消耗品費支出		0	0
租税公課支出		350	-350
委託費支出		2,104,170	-2,104,170
事業費支出計	0	2,384,220	-2,384,220
② 管理費支出			
役員報酬支出		0	0
給与手当支出		0	0
旅費交通費支出		15,084	-15,084
通信費支出		74,073	-74,073
会議費支出		0	0
賃借料支出		547,768	-547,768
光熱水料費支出		42,288	-42,288
消耗品費支出		14,070	-14,070
租税公課支出		194,400	-194,400
広報活動費支出		74,736	-74,736
支払手数料支出		19,872	-19,872
委託費支出		2,099,370	-2,099,370
管理費支出計	0	3,081,661	-3,081,661
事業活動支出計	0	5,465,880	-5,465,880
事業活動収支差額	0	-2,945,575	2,945,575
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	0	-2,945,575	2,945,575
前期繰越収支差額		4,607,657	-4,607,657
次期繰越収支差額		1,662,082	-1,662,082

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
 財産目録
 平成28年9月30日現在

(単位:円)

科目		金額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	現金手許有高	0	
	三井住友銀行/麴町支店	1,858,226	
	商工中金/東京支店	0	1,858,226
前払費用		0	0
	流動資産合計		1,858,226
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
	基本財産合計	0	0
(2) 特定資産			
	特定資産合計	0	0
(3) その他固定資産			
投資有価証券	㈱佐藤造船所 出資金	20,000,000	
	及川電機㈱ 第1回私募債	18,000,000	
	雄勝硯生産販売協同組合 第1回私募債	30,000,000	
	ピースネイチャーラボ 第1回私募債	5,000,000	
	釜石ヒカリフーズ㈱ 出資金	13,000,000	
	㈱トラスト 出資金	10,000,000	
	三陸いりや水産 出資金	10,000,000	
	女川町宿泊村協同組合 第1回私募債	5,000,000	
	onagawa factory 出資金	5,000,000	
	TATAKIAGE Japan コワーキングスペース事業支援債	5,000,000	
	再生の街プロジェクト 第1回私募債	3,000,000	
	オン・ザ・ロード 第1回私募債	10,000,000	
	㈱カシワダイリンクス 出資金	22,000,000	
	㈱神石高原ティアガルテン出資金	4,000,000	
	dreamLab 出資金	4,000,000	164,000,000
差入保証金	富ヶ谷事務所敷金		419,509
	その他固定資産合計		164,419,509
	固定資産合計		164,419,509
	資産合計		166,277,735
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	事務職員人件費、顧問料等の未払い		193,217
預り金	源泉所得税		2,927
	流動負債合計	0	196,144
2. 固定負債			
	固定負債合計		0
	負債合計		196,144

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、前払費用、未払金及び預り金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位:円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	4,830,964	1,858,226
前払費用	0	0
合計	4,830,964	1,858,226
未払金	219,629	193,217
預り金	3,678	2,927
合計	223,307	196,144
次期繰越収支差額	4,607,657	1,662,082



(石巻市「オンザロード」の牡鹿半島狐崎浜での定置網漁業体験の様子)

年次報告書

一般財団法人 共益投資基金 JAPAN

2017 年度

(2016年10月～2017年9月期)

2018年1月発行

東北地域より初の一部償還実現と新たな災害支援として「熊本基金」 設立および地域創生基金の法人設立に寄与

甚大な被害を出した東北の大震災からの、経済復興を実現するこれまでにない枠組みが必要、との確信から、2011年11月に法人を創設し支援を開始、現在まで6年間支援を継続しております。

■「共益投資」という概念の展開

私たちは、復旧を超えた新たな経済モデルの創生を目指して、「共益投資」の概念を生み出し、事業者への支援活動を継続しています。雇用拡大や経済効果を生む新たな地場産業の中核事業者に、資金だけではなく、経営支援や販路拡大支援をサポートしています。またこの共益投資の考え方は東北震災復興支援のみならず全国、様々なターゲットに広がりを見せているものと考えており、今年度は広島県の神石高原町にて地域創生基金の立ち上げの支援を実行させていただきました。これを嚆矢に地域創生のプラットフォームとなれるべく引き続き邁進してまいります。

■二度の資金循環

また資金支援のスタートから5年後をめぐ

に、支援した部分の一部を償還いただき、その償還した資金で、社会復興支援活動をするNPOに助成をする、という二度の資金循環を目指しています。今年度は支援先から初めて2件、100万円の償還を受けることができました。皆様のご努力でご償還いただいた貴重な資金は、現在も東北地域で活動されていらっしゃる方々にお役立ていただくよう検討します。

■東北への息の長い復興への支援

皆様のご支援をいただき、東北における支援は6年が経過しました。今後も伴走支援を継続していく所存です。

■今までの経験とノウハウを熊本地震からの復興にも活用

東北の震災復興支援のノウハウを熊本地震からの復興にいかしていくため、公益社団法人 Civic Force 様から寄付を頂戴し、「熊本基金」にて具体的な案件を支援してまいります。引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

一般財団法人

共益投資基金 JAPAN

○これまでの 活動実績

<2011～2017年:

現状の支援案件と資金支援残高>

13案件 16,400万円

雄勝硯生産販売協同組合	3,000万円
佐藤造船所	2,000万円
及川電機	1,800万円
釜石ヒカリフーズ	1,300万円
トラスト	1,000万円
三陸いりや水産	1,000万円
女川町宿泊村協同組合	500万円
onagawa factory	500万円
TATAKIAGE Japan	450万円
有限会社ドウビー・ソーシャル事業部 (旧被災事業所復興支援室)	250万円
オンザロード	1,000万円
カシワダイリンクス	3,200万円
dreamLab	400万円

○今年度の活動、投資実績・効果について

【今年度の活動】

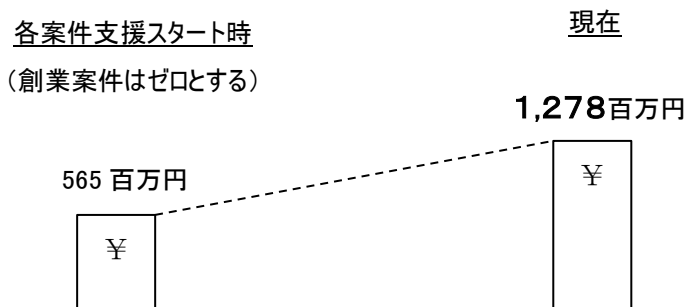
本年度も、引き続き、資金および事業活動のサポートを継続実施してまいりました。また2件の一部償還を実行されております。ただ一方で、誠に残念ではありますが、諸事情勘案、1件事業精算をされる結果となりましたことをご報告させていただきます。引き続き支援先のバリューアップのお手伝いを継続してまいる所存です。今年度の主だった取組事項は以下の通りです。

- 既存13案件のバリューアップ継続
- 社会的投資管理指標(KPI)を共有しての管理継続
- 既存支援先からの一部償還実行(タキアゲジャパン様、被災事業所復興支援室様合計100万円)
- ピースネイチャーラボ様の事業精算対応(支援金額500万円)

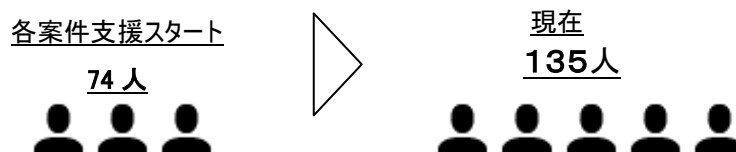
また前述しましたが、現在までの経験とノウハウを熊本からの震災復興支援、および地域創支援にも対応すべく、体制を整えながら運営しております。今後ともご支援のほどなにとぞよろしくお願いいたします。

【これまでの投資効果】

<売上高の拡大(現在までの支援先13件合計)>



<雇用の維持と拡大(昨年度までの支援先12件合計)>



<現在までに支援先が金融支援や助成金、義捐金等をいただいた金額合計>

1,343 百万円

皆様のご支援、各支援先のご努力、追加支援の輪の拡大の循環で、現在まで支援先合計で上記のような効果が表れてきております。その他定性的な各案件の地域貢献含む共益投資の広がりには各件のご報告をご参照ください。

○今後の方針 検討中案件について

【目的・目指すゴールと現状】

基金のスタート時点では、数年間(当初想定は2016年まで)はいただいた寄付を原資として、東北被災地域における事業再生および起業に資金支援および、人的なサポートを実施継続することを想定しておりました。支援スタートから6年を経た現在までの資金支援実行先は14件となり、今年度の1件の事業精算がございましたが、13件の支援先が現在まで事業を継続していただき、皆様の一定の事業拡大と地元雇用の確保および拡大に微力ながら寄与させていただけたものと考えております。

またもう一つの基金設立の目的の柱である、二度の資金循環の実行に関しましても、今年度2件100万円のご償還をいただきましたので、他の案件も含めまして今後も可能な限り当初の資金支援分までの償還を受け、最終的には経営陣および地元資本にエグジットすることで、当該事業者が地元資本の地元の人が運営する会社として持続していくことを目指しております。償還の最大期間は10年を想定しており、その期間中に償還を受け、償還資金はその時点で社会的な事業を継続されているNPO団体等に寄付することを想定しております。東北の支援先から償還を受けた資金は、その時点で東北にて活動されている団体に助成いたします。頂戴いたしました償還資金の活用方法は現在検討中で、次年度の実行を目指しております。

【今後の課題】

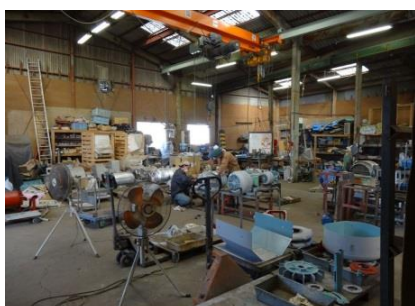
東北においては、震災から6年を経過した時点において、社会全体の関心がますます低下している傾向にあります。インフラの復興は達成されたものと考えておりますが、本当の意味での復興を超えた創造的な地域基盤の復興はまだこれからであると考えており、地域全体の復興の達成をめざして、継続支援を実施していく所存です。残念ではございますが、1件の事業精算があった事実からも、各案件につきましては、収支についての観点から確認させていただくと、売上向上を達成されている先と、売上および収支が震災前の数値まで改善できていない先とのばらつきがより一層はっきりとってきているのが現実です。引き続き各支援先が必要とされているサポートを続け、みなさまの意向をベースにした将来方針を協力して作成の上、実行することを今後も続けてまいります。

【今後の計画】

東北においては、引き続きご償還を実行いただき、今年度頂戴した償還資金に加えて、まずは2度の資金循環の実行のため、現在地域で活動されている方々に助成することを目指しております。

また基金ジャパンとは、「熊本基金」を設立しましたので、熊本の震災における具体的支援の実行を検討しております。それに加えて、震災等の復興スキームをこれからは地域創生のスキームとして活用すべく、神石高原町の基金が設立されましたので、その運営のアドバイスを通じて、共益投資の環を拡大すべく鋭意努力してまいります。

また新しい取組ができましたら、ご報告させていただきます。



○基金のこれまでの取組み

～2011年～

- 11月 一般財団法人 東北共益投資基金設立
- 12月 一号案件「雄勝硯生産販売協同組合」発表

～2012年～

- 1月 二号案件「佐藤造船所」発表
- 2月 「ユニクロ 復興応援プロジェクト」
協働パートナー決定
- 3月 三号案件「及川電機」発表
- 4月 復興起業キャピタル発表
- 5月 四号案件（復興起業キャピタル一号案件）
「ピースネイチャーラボ」発表
- 6月 復興金融円卓会議準備会、
共益投資サロン第一回開催
- 7月 「三陸リアス復興資本」の環発表 &
五号案件（三陸リアス復興資本一号案件）
「釜石ヒカリフーズ」発表
- 10月 六号案件「トラスト」発表
- 11月 七号案件「三陸いりや水産」発表
- 12月 八号案件「女川町宿泊村協同組合」発表

～2013年～

- 1月 九号案件（復興起業キャピタル二号案件）
「株式会社 onagawa factory」発表
- 6月 十号案件「NPO 法人 TATAKIAGE Japan」発表
- 7月 十一号案件（復興起業キャピタル三号案件）
「被災事業所復興支援室」発表

～2014年～

- 10月 一二号案件「オン・ザ・ロード」発表

～2015年～

- 1月 一三号案件「カシワダイリンクス」発表
- 3月 一四号案件「dreamLab」発表

～2016年～

- 4月 「共益投資基金JAPAN」に名称および体制を変更

～2017年～

- 6月 公益社団法人 Civic Force 様より追加でご寄付頂戴し
「熊本基金」設立
- 7月 神石高原町チャレンジ基金の設立検討業務受託実行
- 9月 「NPO 法人 TATAKIAGE Japan」および
「被災事業所復興支援室」より各 50 万円ずつ償還実行

投資先地域



○各支援先の状況報告

第1号案件

雄勝硯協同組合（宮城県石巻市）

～伝統工芸雄勝硯を多種にいかし地道に活動続ける～

概要

代表者：澤村 文雄(理事長) 業 種：工芸品製作
支援策：資金+アドバイザー派遣 投資額：3,000万円
サイト：<http://www.ogatsu-suzuri.jp/>



本設の住宅や防潮堤の建設など、町の復興計画がようやく形になり始めた雄勝町ですが、まだまだその道のりは長いものとなりそうです。

硯組合の活動も、地元宮城の仙台放送主催の「東北・みやぎ復興マラソン」の完走者記念品として雄勝石を使ったメダルが採用され、完走を果たされた10,000人弱の方達の首にかけて頂くこととなりました。組合にとって、大型の受注案件であるとともに、被災地域内外に向けて大きなアピールとなる有意義な事案となりました。また、仙台放送様にも大変ご満足頂けたとともに、次回もご採用頂くためのご相談にもすでに着手しております。

その他にも、大型の事案はないものの、本設公営住宅用の壁材提供など、地道に活動を続けております。経済面、人材面をはじめ、依然厳しい業況に変わりはありませんが、大きな事故等もなく2017年を終えようとしています。

理事長・澤村文雄氏 ひとこと

まずは日頃の皆様からのご支援に心から感謝申し上げます。さて、震災から6年以上経った昨今、域外から雄勝町を訪れる方々の数も減り、少しずつ風化していくことへの恐れを感じずにはいられません。そのような中、組合の活動としては、全般論としては非常に苦しい状況ですが、個別論では、仙台放送様の事案や今後雄勝町で建設される建物への雄勝石の利用など、商いの側面とは別に、地域貢献となる喜ばしい事案もございます。今後とも一丸となり頑張っておりますので、より一層のご支援のほど心よりお願い申し上げます。

第2号案件

佐藤造船所（宮城県石巻市）

～施設設備の復旧により一部事業の再開に至る～

概要

代表者：佐藤 文彦（代表取締役） 業 種：特殊船舶の修理・整備
支援策：資金 投資額：2,000万円



皆様、大変お世話になっております。震災から6年が経過する中、これまで多くの様々な問題に直面しながら、現状ある課題と真摯に向き合い、早急な施設設備の復旧。そして、一日でも早い事業の再開に全力を尽くしてまいりました。お蔭様で本年6月中旬にようやく一部事業（船舶の上下架作業）の再開にこぎつけることが出来ました。これも多くの皆様からのお力添えがあったからこそと、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。本来は準備万端整えて年明け早々からの再開を予定しておりましたが、様々なアクシデントが重なり不本意ながらシーズン途中からとなりました。更には7月上旬から9月下旬までは年内最大の繁忙期でもあった為、新たな上下架装置の試運転調整等の時間が十分とれない状況での操業開始となり悪戦苦闘の連続でもありました。しかしながら、同時に、こんにちこうして地域基幹産業（水産業）の下支えとして微力ながら再び役割を担える喜びと、ようやくスタートラインに立ったと言う実感も湧いてきました。これからが本当の正念場です。現時点では震災前の造船所機能回復までには至っておりません。今後はこの現状課題の解決と震災以来からの懸案事項として当所地区全体、特に事業敷地に隣接する防潮堤工事等の進捗状況を注視しながら事業活動に最善を尽くしてまいります。

代表取締役・佐藤文彦氏 ひとこと

今日まで多くの皆様に温かい励ましを頂いております事、心から感謝申し上げます。これまで通り、現状ある課題と真摯に向き合い、事業目的の遂行実現に最善を尽くしてまいります。今後とも宜しくお願い致します。

第3号案件

及川電機 (宮城県石巻市)

～新入社員も迎え組織再編と効率化等新たな問題に取り組む～

概要

代表者: 及川 雅貴(代表取締役) 業種: 船舶電気機器・醸装
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1800万円

サイト: <https://www.facebook.com/odk1721/>



震災より六年を数えます今年度は昨年から続く苦境の年でありました。

五年目を迎えてからが復興本番との言葉通り、周囲の環境がある程度震災前の水準を取り戻したからこそ、震災前から抱えていた問題が顕在化しつつあることに加え、弊社では、先年から続く人材確保の問題が解決できずにいる状態が続いております。

前年から抱えていた社内の摩擦についてはある程度の緩和が見られ、六月には新入社員一名を迎えることができたものの、怪我や病気などにより熟練の社員が十全に動けない状態が断続的に続いており、思うように受注を確保できない状態が続いておりました。

今度は、これらの問題に向き合いつつ社内の組織再編と効率化、技術の向上に向けて社員の手を借りながらより一層の努力を続けて参りたいと考えております。

社長・及川雅貴氏 ひとこと

震災から六年が過ぎ、一年一年が課題と試練の年だと強く感じるようになりました。皆様からいただいた御支援を支えに、乗り越えていきたいと思っております。

第4号案件

トラスト (宮城県亶理郡)

～一部事業黒字化実現さらなる改善を目指す～

概要

代表者: 丸子 孝市(代表取締役) 業種: 電子回路基板製造業
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1000万円

サイト: <http://www.trustweb.co.jp/>



株式会社トラストは、宮城県亶理郡でプリント基板製造装置の中古機械販売・保守サービスを仕事として取り組んでまいりました。

震災により工場が多大な被害を受けましたが、震災後は中古機器販売事業に加えて新品機器販売事業及び表面実装事業を開始しました。新品・中古機器販売事業は比較的堅調で、表面実装事業に於いては携帯電話、自動車関連等で受注が昨年10月から上向きに推移、現在では黒字化を実現するようになりました。

しかし、赤字状態の長期化が財務内容を圧迫しております。わずかではありますが日々、改善傾向にあると思っております。従業員の雇用を死守する為、なお一層の経営努力を図ってまいります。

社長・丸子孝市氏 ひとこと

震災以降、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。東北地域全体でエレクトロニクス関連の仕事が低迷する中、新事業である表面実装事業は苦戦を強いられましたが、長期に渡るご支援と営業努力の結果、表面実装事業の黒字を達成致しました。これからは、この黒字の維持、向上すべく努力を図ってまいりますので、引き続きご支援宜しくお願い致します。

第 5 号案件

女川町宿泊村旅館組合 （宮城県牡鹿郡女川町） ～移転リニューアルオープンにより地域の集客にも寄与～

概要

代表者：佐々木 里子（理事長） 業 種： 宿泊施設運営
支援策： 資金 投資額： 500 万円
サイト： <http://hotel-elfaro.com/>



今まで営業しておりました女川町 清水地区が、復興に関わる嵩上げの時期になり トレーラーハウスを移動し今年 8 月より女川駅より徒歩 1 分の場所でリニューアルオープンいたしました。

お客様も「便利になった」と喜んでくださり、駅前商店街からも「お客様が増えた」と声があがっております。

JR 女川駅 物産店 飲食店 温泉 そして宿泊施設が徒歩圏内に揃った今年からは 滞在型人口の増加に寄与して参りたいと思っています。



理事長・佐々木里子氏 ひとこと

ホテル・エルファロの新コンセプト【アウトドアリビング】。

お部屋で十分に寛いでいただき 外では山や海などのアクティビティを満喫出来るよう 旅のお手伝いをさせていただきます。

第 6 号案件

釜石ヒカリフーズ （岩手県釜石市） ～順調に取引先増加および雇用創出続く～

概要

代表者：佐藤 正一（代表取締役） 業 種： 水産加工業
支援策： 出資+アドバイザー派遣 投資額： 1300 万円
サイト： <http://www.hikarifoods.jp/>



当社は、2011 年 8 月に岩手県で震災後第 1 号の新規水産加工事業として岩手県釜石市に設立されました。最先端の冷凍設備と加工技術により、東北地域で水揚げされたタコ、イカ、鮭、ワカメなどを主に業務用として加工販売しています。また JST との「スラリーアイスを用いた鮮度流通」や農水省の「水産加工業の実用化実証研究」などの研究開発事業も行っています。



社長・佐藤正一氏 ひとこと

震災以降、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。当社は、地元の雇用創出、地域漁業者との連携、次世代人材の育成をミッションに掲げています。おかげさまで、各生協、JA、大手外食チェーンを始めとする 40 社以上の取引先を抱え、約 30 名の雇用創出につながりました。今後は事業の拡大に伴い、第二工場建設も視野に入れて参ります。今後ともよろしく願いいたします。

第7号案件

三陸いりや水産 (岩手県釜石市)

～地元業者との連携により更なる商品開発を目指す～

概要

代表者: 宮崎 洋之 (代表取締役) 業 種: 水産加工業
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1000 万円
サイト: <http://www.sanriku-ilya.jp/>



三陸いりや水産株式会社は、大手外食企業の欧州責任者であった宮崎社長が、震災後岩手県釜石市で起業された水産加工会社です。地元産の地魚を利用した「三陸ブイヤベース」などの商品開発や健康食品材料の鮭白子の卸売を行っています。地元企業や漁業者と連携して地元産品を使った六次化商品開発のためKAMAROQ 株式会社を設立し、「釜石海まん」などの商品を発売しています。



社長・宮崎洋之氏 ひとこと

震災以降、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。被災事業を継承した鮭フレーク加工事業は、従業員の引退の時期を迎え、2016 年夏をもって事業を停止しました。今後は、KAMAROQ 株式会社や地元の水産会社との連携を行いながら、地元産品を活用した商品開発を通じて、地域の発展に貢献していきます。今後ともよろしく願いいたします。

第9号案件

オナガワファクトリー (宮城県牡鹿郡女川町)

～他業者との新商品開発により売上増加を狙う～

概要

代表者: 湯浅 輝樹 (代表取締役) 業 種: 工芸品開発・販売
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 500 万円
サイト: <http://ameblo.jp/small-rebuild-project/>
<https://www.rakuten.co.jp/onagawafish/>



木工手工芸品の新たな方向性を探る中、2016 年末より木製玩具の人気メーカーである株式会社おもちゃのこまーむ(埼玉県川口市栄町 1-4-16)の協力を得ることができ、現在、おもちゃのこまーむのプロデュースによる新たなブランドの構築をおこなっている。具体的には魚をモチーフにしたガラガラや歯固めなど、乳幼児を対象とした木製の玩具を製作。2017 年 12 月のリリースに向け、現在最終調整を行っている。ブランド名を『onagawa fish baby』とし、おもちゃのこまーむと弊社のダブルネームで売り出し、両社からの販路開拓をおこなう事で幅広い販路の開拓を狙っている。おもちゃのこまーむの商品は、最低でも年間 3,000 個の出荷を切ることはないの、新商品も各々 3,000 個/年の出荷を目標とし、弊社の売上げの底上げを狙っている。



代表取締役・湯浅輝樹氏 ひとこと

「支援だから買う」商品から「買いたくなる」商品づくりを目指してきましたが、ようやく土俵に立つことが出来ました。

第 10 号案件

TATAKIAGE Japan (福島県いわき市)

～順調に活動を拡げ地域に貢献～

概要

代表者: 松本 文 (代表理事) 業 種: 起業家育成、
ワーキングスペース運営
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 500 万円
サイト: <http://www.tatakiage.jp/> <http://hamacom.jp/>



「地域でアクションする人の次の一歩を地域みんなで応援する仕組みと文化を提供しよう！」をミッションに掲げ、基金からの資金援助のもと「コワーキングスペース」を 2013 年 7 月に開設後、「浜魂」を 2015 年 8 月から始めて開催数も 20 回を超え、総登壇者数も 100 人を超えました。昨年度からは、いわき市役所やふくしま復興塾、いわきビジネスプランコンテストとの横連携も構築でき、浜魂で生まれた小さいアクションの種をビジネスにまで育てようという動きにまでなってきました。これらによって、いわき市は、東北でも有数のアクションを始めやすいまちになってきたと感じます。

また、活動の幅もかなり広がりを見せており、地域の大学を地元のキーマンと繋ぎプロジェクト型の授業を設計したり、首都圏の大学生を地元企業と繋ぎインターンシップをコーディネートしたりと、地域内外、多くのプレーヤーとのネットワークが構築されてきたからこそ、地域の新しいアクションのハブとして頼られる団体に成長してきたように思います。

これからも福島から日本を変えるアクションを、市民を巻き込み楽しみながら生み出していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

理事長・松本文氏 ひとこと

アクションの輪が広がり、いわき市は、どんどん面白い地域に育ってきていると感じます。引き続きご支援よろしくお願いいたします。

第 11 号案件

有限会社ドウビー・ソーシャル事業部(旧被災事業所復興支援室)(宮城県石巻市)

～安定した太陽光発電事業での売上を活用し次なる支援事業を検討～

概要

代表者: 古藤野 智 (代表理事) 業 種: 太陽光発電事業
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 300 万円
サイト: <https://www.facebook.com/saiseinomatikikin>



次回支援予定の地元シニアNPO「日和なごみ会」

東北共益投資基金(当時)様からご支援いただいて、2013年から起業した太陽光発電事業ですが、4年を超えても変わらず安定した売電実績を上げています。

それに伴い始めた地域応援プロジェクト「再生の街プロジェクト」も地元のジュニアゴルファーへ総額 285 万円あまりの支援をすることができました。

現在はジュニアゴルファーへの支援は休止し、次の支援事業の検討をしています。被災地への公的資金が先細る中、地域に密着した地道な支援活動をしていきたいと思っております。

代表パートナー・古藤野智氏 ひとこと

再生可能エネルギーの普及と地元の支援、がんばります！

第 12 号案件

オン・ザ・ロード (宮城県石巻市)

～施設利用による人材交流を生み地元活性化に寄与～

概要

代表者: 高橋 歩 (代表理事) 業 種: ゲストハウス・コミュニティスペース運営

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1000 万円

サイト: <https://otr.or.jp/>



ロングビーチハウスでは、石巻の特産物を使用したスペイン料理レストランや、被災地にはまだまだ少ない宿泊施設、地域活性に向けた多種多様なイベントの運営を行っています。イベントには、これまで約400名の方に参加していただきました。

オープン2年目を迎えた現在、地元の方の雇用を始め、新しい仲間と共に弊施設を運営中です。また、石巻に訪れた県外の方とご近所の地元の方が繋がる機会も日々創出されており、石巻が賑わう一助を担っています。

今後は、石巻の若者が主体となって、多方面からの石巻を活性化できる活動プログラムを提案していきたいと考えています。石巻に住む人々のさらなるコミュニティの形成、被災地の活性化を目指していきます。

🗨️ 事務局長・岡本舞子氏 ひとこと

震災から6年が経ち、目に見える災害の爪痕は無くなりつつあります。ですが、被災された方々の悲しみは消える事はありません。私達には、その悲しみを消してあげる事は出来ませんが、その悲しみを少しでも癒し、笑顔を増やす事は出来るのではないのでしょうか。

水に水紋が広がるように、ロングビーチハウスから石巻へ。石巻から日本そして世界まで。人々の笑顔の波を広げていければと思っています。

皆様にとって、今回の体験が何かを思い考えるきっかけとなりましたら幸いです。石巻へ！お待ちしております。

第 13 号案件

株式会社カシワダイリンクス (広島県神石郡)

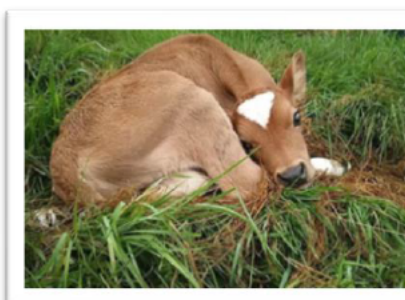
～酪農事業順調新たな商品展開を目指す～

概要

代表者: 相馬 幸香 (代表取締役) 業 種: 牧場経営・乳加工品製造・販売事業

支援策: 資金 投資額: 2,600 万円

サイト: <http://www.somas-ranch.com>



皆様からご支援を頂き初める事が出来ました酪農事業も今年で3年目となり、搾乳頭数も増えてまいりました。昨年同様体験型テーマパーク「神石高原ティアガルテン」のソフトクリームショップの運営と同施設内のショップでもソフトクリームを販売して頂き、販売量も増えてまいりました。加工商品である「ヨーグルトドリンク」も好評で1年を通じて生産販売が出来るようになりました。

来年はさらに搾乳頭数が増えてまいりますし、新たな商品展開も考えております。

🗨️ 牧場長・相馬行胤氏 ひとこと

写真のような子牛が元気に育っています。

第 14 号案件

株式会社 dreamLab (福島県いわき市)

～子どもの夢を応援するプログラムを試行錯誤～

概要

代表者: 小川 智美 業 種: 学童保育事業 (人材育成教育事業)
支援策: 資金 投資額: 400 万円
サイト: <http://d-ljp/>



ドリームラボを設立してから、2 年が経ちました。昨年 1 年間の反省とともに、いろいろな部分で試行錯誤をしています。アフタースクールでは、「英語で世界について学び、自分の考えを世界に発信しよう」をテーマに、子どもたちが、英語でプレゼンテーションができるようなプログラムを導入しました。また、英語のインプットやアウトプットの方法を考え、楽しみながら学習できるようカリキュラムの検討を重ねています。

ロボット教室では、子どもたちは、休憩も取らず、3 時間集中して、プログラミングを楽しんでいます。今年もロボットの大会(WRO新潟地区予選大会)に参加し、中学生・小学生ともに優勝しました。

今後も、英語やプログラミングを通して、子どもたちの夢を応援するため、スタッフ一同、力を合わせ、さらなる上を目指し、挑戦していきます！



代表取締役・小川智美氏 ひとこと

ドリームラボは、子どもたちの知的好奇心を刺激し、進化していきます！

【事業精算のご報告:ピースネイチャーラボ様の件】

2012 年 5 月に 500 万を資金支援させていただきましたピースネイチャーラボ様が、2017 年 6 月に事業を精算されました。弊基金としましても諸々ご検討しましたが、事業環境等勘案、方向性を共有させていただいた次第です。基金からの支援資金で購入された資材の一部は別のNPOに譲渡され活用いただくこととなります。以下代表の畠山様からの経緯説明とご支援者様へのメッセージを掲載させていただきます。

<設立の経緯>

東日本大震災における被災地気仙沼において、復旧から復興へと移り変わるに従い、基盤産業である水産業および観光業の新展開が望まれおり、気仙沼に拠点があるNPO 法人森は海の恋人と連携し、「流域」をテーマとした新たな加工食品およびツーリズムの研究・開発を展開をスタートした。

<解散の判断に至った経緯>

当初想定していた流域をテーマとした加工食品(燻製牡蠣のオイル漬け)の売上げが伸び悩んだことが業績悪化の主要因となった。加工場(トレーラーハウス)の設置場所が復旧工事の対象となったこともあり、加工場の増設もできず増産するまで至らなかった。また、就労する従業員の確保についても、被災地全域で大きな課題となっている労働者不足のために確保することが困難であった。その後ツーリズムにむけてシフトするに至ったが決定的な改善はみこめず、解散することを判断した。

<支援者の皆様へ>

・皆様からのご寄付により活動させて頂いていたPNLですが、この度上記により解散する運びとなりました。これまでご支援いただきました皆様に心より御礼申し上げます。皆さまからの温かなご支援のもとで生まれた理念および活動の一部はNPO 法人森は海の恋人へ引き継ぎ、より現状に即した形で東日本大震災による被災地の復興へ向けた取り組みとさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○2017 年度 収支報告、助成金内容

共益投資基金 JAPAN の収支報告をします。経理処理は、外部税理士によって行われ、その正確性、公正性については、理事会および評議員会、監事によって確認をされています。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

区分・項目	2017 年度実績		
人件費	370		
	事務局の運営に対応する人件費	209	
	支援案件の各種業務に対応する人件費	161	
旅費(事務職員等)	4		
広報活動・WEB 管理費	3		
事務所費および投資業務推進費	198		
	事務所費	通信費・備品費、水道光熱費、家賃等	
	投資業務 推進費	投資業務推進に係わる旅費・会議費	
		77	
		121	
バリューアップ支援費	外部専門家による調査や各種支援の委託費		
		53	
合計			628

(単位:万円)

弊団体に対して、設立当初より合計 500 万円以上のご寄付をいただいた法人・個人は、以下の通りです。ご支援、誠にありがとうございます。

2011 年からの合計額

- ・公益社団法人 Civic Force: 1 億 7,215 万円 (2017 年度 計 1,600 万円追加でのご支援)
- ・九州郵便局長協会: 3,000 万円
- ・株式会社 ユニコロ: 6,220 万円 (ユニコロ復興応援プロジェクトより)

【一般財団法人 共益投資基金 JAPAN】

所在地 東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12 富ヶ谷小川ビル 2 階

問合わせ TEL:03-3466-3676、 e-mail:info@kyoueki.jp

基金ホームページ <http://kyoueki.jp/>

<参考> 共益投資基金 JAPAN のご紹介

被災地の中小の事業者の再起においては、金融機関や行政の資金供給だけでは十分に答えられない現実があります。サプライチェーンやバリューチェーンが大きな打撃を受ける中、旧来の産業の単なる復旧を超えた、地域のつながりを新生する新たな地場産業モデルを創出していく必要があります。

2011年の東日本大震災をきっかけに設立した「東北共益投資基金」は、被災された企業の皆さんにビジネススキルとともに資金的な支援の手を差し伸べることで復興を具体的に支援し、数年後に事業が順調に立ち上がって可能な限り償還していただいたものを原資として地域で活動するNPOへ助成する「二度の資金循環」を目的に立ち上がり、累積14案件1.7億円の支援を実施しております。

2016年より生まれ変わった「基金ジャパン」は、大規模被災地域における復興支援の仕組み「共益投資」のノウハウを他の地域にも展開し、災害大国の日本における地域経済の復興に寄与して新しい地域経済をリードする共益事業を支援してまいります。

■基金のフレームワーク



1. 新たな地場産業モデル創出支援

新しい地域経済をリードする「共益事業」に積極投資し、(資本性のある資金の提供)、コミュニティ新生も視野に入れた地域活動の広がりをめざします

2. バリューアップ支援

資金の提供だけではなく、地域固有の価値を発揮できるよう、ノウハウ提供・経営支援でバリューアップを図ります

3. 二度の資金循環

「共益経済」の実現に向けて、5年をめぐりに地元で資本をパトタッチ、償還された資金を次の課題へ再投資します(NPO等への助成)

第6事業年度
(平成29年度)

決算報告書

一般財団法人 共益投資基金JAPAN

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
貸借対照表
平成29年9月30日現在

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	7,542,327		
未収入金	2,970,000		
仮払金	2,630		
流動資産合計		10,514,957	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0		
(2) 特定資産			
特定資産合計	0		
(3) その他固定資産			
投資有価証券	164,000,000		
差入保証金	419,509		
その他固定資産合計	164,419,509		
固定資産合計		164,419,509	
資産合計			174,934,466
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	472,139		
預り金	3,080		
流動負債合計		475,219	
2. 固定負債			
固定負債合計	0		
負債合計		0	475,219
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産		3,000,000	
(うち基本財産への充当額)		(0)	
2. 一般正味財産			
一般正味財産		171,459,247	
正味財産合計			174,459,247
負債及び正味財産合計			174,934,466

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
正味財産増減計算書
平成28年10月1日から平成29年9月30日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 事業収入		
業務受託収入		3,654,000
① 受取寄付金		
受取寄付金		16,000,000
② 受取助成金		
受取助成金		0
③ 雑収益		
受取利息	15	
雑収益	10,044	10,059
経常収益計		19,664,059
(2) 経常費用		
④ 事業費		
給与手当	0	
旅費交通費	1,151,595	
通信費	1,000	
会議費	11,836	
賃借料	0	
光熱水料費	0	
消耗品費	0	
雑費	62,180	
委託費	2,145,390	
事業費計		3,372,001
⑤ 管理費		
役員報酬	0	
給与手当	0	
旅費交通費	16,770	
通信費	84,035	
会議費	5,940	
賃借料	334,320	
光熱水料費	28,102	
消耗品費	47,191	
租税公課	257,970	
広報活動費	29,937	
支払手数料	19,548	
委託費	2,090,590	
管理費計		2,914,403
経常費用計		6,286,403
当期経常増減額		13,377,656
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益計	0	0
(2) 経常外費用		
貸倒損失	5,000,000	
経常外費用計		5,000,000
当期経常外増減額		-5,000,000
当期一般正味財産増減額		8,377,656
一般正味財産期首残高		163,081,591
一般正味財産期末残高		171,459,247
II 指定正味財産増減の部		
指定正味財産期首残高		3,000,000
指定正味財産期末残高		3,000,000
III 正味財産期末残高		174,459,247

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券 …… 時価のないもの：取得原価法によっている。

(2) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
収支計算書
平成28年10月1日から平成29年9月30日まで

(単位:円)

科目	期初予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 事業収入				
業務受託収入	500,000	3,654,000	3,154,000	熊本関連調査受託分
① 受取寄付金収入				
受取寄付金収入	30,000,000	16,000,000	-14,000,000	熊本関連期初目標との差額分
② 受取助成金収入				
受取助成金収入		0	0	
③ 雑収入				
受取利息収入		15	15	
雑収入		10,044	10,044	
事業活動収入計	30,500,000	19,664,059	-10,835,941	
2. 事業活動支出				
④ 事業費支出				
投資有価証券取得支出	0	6,000,000	6,000,000	カシワダイリンクスへの追加出資分
給与手当支出		0	0	
旅費交通費支出	450,000	1,151,595	701,595	熊本、神石基金設置検討出張関連
通信費支出		1,000	1,000	費用部分による超過
会議費支出	50,000	11,836	-38,164	
賃借料支出		0	0	
光熱水料費支出		0	0	
消耗品費支出		0	0	
租税公課支出	100,000	62,180	-37,820	
委託費支出	2,000,000	2,145,390	145,390	
事業費支出計	2,600,000	9,372,001	6,772,001	
⑤ 管理費支出				
役員報酬支出		0	0	
給与手当支出		0	0	
旅費交通費支出	100,000	16,770	-83,230	
通信費支出	100,000	84,035	-15,965	
会議費支出	100,000	5,940	-94,060	
賃借料支出	550,000	334,320	-215,680	移転にともなう新賃料分
光熱水料費支出	50,000	28,102	-21,898	
消耗品費支出	100,000	47,191	-52,809	
租税公課支出	200,000	257,970	57,970	
広報活動費支出	100,000	29,937	-70,063	
支払手数料支出		19,548	19,548	
委託費支出	1,600,000	2,090,590	490,590	熊本、神石設立関連委託分による超過
管理費支出計	2,900,000	2,914,403	14,403	
事業活動支出計	5,500,000	12,286,403	6,786,403	
事業活動収支差額	25,000,000	7,377,656	-17,622,344	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 償還収入	2,000,000	1,000,000	-1,000,000	
投資活動収入計	2,000,000	1,000,000	-1,000,000	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	2,000,000	1,000,000	-1,000,000	
III 財務活動収支の部				
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	27,000,000	8,377,656	-18,622,344	
前期繰越収支差額	1,662,082	1,662,082	0	
次期繰越収支差額	28,662,082	10,039,738	-18,622,344	

一般財団法人 共益投資基金JAPAN

財産目録

平成29年9月30日現在

(単位:円)

科目		金額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	現金手許有高	0	
	三井住友銀行/麴町支店	7,542,327	7,542,327
未収入金	神石高原町 業務委託収入		2,970,000
仮払金	事業所費未精算分		2,630
	流動資産合計		10,514,957
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
	基本財産合計		0
(2) 特定資産			
	特定資産合計		0
(3) その他固定資産			
投資有価証券	(株)佐藤造船所 出資金	20,000,000	
	及川電機(株) 第1回私募債	18,000,000	
	雄勝硯生産販売協同組合 第1回私募債	30,000,000	
	釜石ヒカリフーズ(株) 出資金	13,000,000	
	(株)トラスト 出資金	10,000,000	
	三陸いりや水産 出資金	10,000,000	
	女川町宿泊村協同組合 第1回私募債	5,000,000	
	onagawa factory 出資金	5,000,000	
	TATAKIAGE Japan コワーキングスペース事業支援債	4,500,000	
	再生の街プロジェクト 第1回私募債	2,500,000	
	オン・ザ・ロード 第1回私募債	10,000,000	
	(株)カンワダイリンクス 出資金	28,000,000	
	(株)神石高原ティアガルテン出資金	4,000,000	
	dreamLab 出資金	4,000,000	164,000,000
差入保証金	富ヶ谷事務所敷金		419,509
	その他固定資産合計		164,419,509
	固定資産合計		164,419,509
	資産合計		174,934,466
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	事務職員人件費、顧問料等の未払い		472,139
預り金	源泉所得税		3,080
	流動負債合計		0
2. 固定負債			
	固定負債合計		0
	負債合計		475,219

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、前払費用、未払金及び預り金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位:円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	1,858,226	7,542,327
未収入金	0	2,970,000
仮払金	0	2,630
合計	1,858,226	10,514,957
未払金	193,217	472,139
預り金	2,927	3,080
合計	196,144	475,219
次期繰越収支差額	1,662,082	10,039,738



年次報告書

一般財団法人 共益投資基金 JAPAN

2018 年度

(2017 年 10 月～2018 年 9 月期)

2018 年 12 月発行

(熊本県阿蘇市の「草原再生オペレーター組合」の草原採草の様子)

東北地域からの償還資金を原資とした新たな支援の形を検討。また「熊本基金」を利用した具体的支援を実行

甚大な被害を出した東北の大震災からの、経済復興を実現するこれまでにない枠組みが必要、との確信から、2011 年 11 月に法人を創設し支援を開始、現在まで東北、熊本地域に対して 7 年間支援を継続しております。

■「共益投資」という概念の展開

私たちは、復旧を超えた新たな経済モデルの創生を目指して、「共益投資」の概念を生み出し、事業者への支援活動を継続しています。雇用拡大や経済効果を生む新たな地場産業の中核事業者に、資金だけではなく、経営支援や販路拡大支援をサポートしています。またこの共益投資の考え方は東北震災復興支援のみならず全国、様々なターゲットに広がりを見せているものと考えており、熊本震災および、広島県の神石高原町にて地域創生基金の立ち上げの支援を実行させていただきました。これからも災害復興および地域創生のプラットフォームとされるべく引き続き邁進してまいります。

■二度の資金循環の実行

また資金支援の部分をご償還いただき、その償還資金で、社会復興支援活動をする NPO に助成をする、という二度の資金循環を目指しています。昨年度に初めて償還いただき、本年度も引き続き支援先から合計 6 件、700 万円の償還を受けることができました。ご償還いただいた貴重な資金は、NPO 法人さまぶり様と協力して、次年度に 1 回目の助成を実行できるように準備しております。

■東北および熊本への息の長い復興への支援

皆様のご支援をいただき、東北における支援は 7 年が経過。熊本への支援も開始いたしました。今後も変わらず支援を継続していく所存です。

■これまでの経験とノウハウを災害支援や地域創生支援にも活用

現在までの経験とノウハウ活用し、各種支援のプラットフォームとされるよう検討してまいります。

一般財団法人

共益投資基金 JAPAN

<2011～2018 年:>

これまでの支援案件と資金支援額>

東北基金:14 案件 17,000 万円

⇒案件別の現状ご報告は P.5 以降

熊本基金:3 案件 600 万円

阿蘇草原再生オペレーター組合	300 万円
きりりコーポレーション	150 万円
山都でしか(既決)	150 万円

○今年度の活動、投資実績・効果について

【今年度の活動】

本年度も、引き続き、東北および熊本地域で資金および事業活動のサポートを継続実施してまいりました。また6件700万円の一部償還を継続実行していただいております。引き続き支援先のバリューアップのお手伝いを継続してまいります。今年度の主だった取組事項は以下の通りです。

○既存東北13案件および、熊本3件の資金支援実行とバリューアップ継続

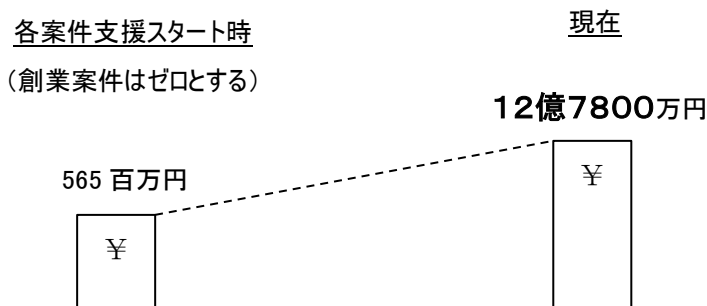
○社会的投資管理指標(KPI)を共有しての管理継続

○既存支援先からの一部償還実行(6件、合計700万円)

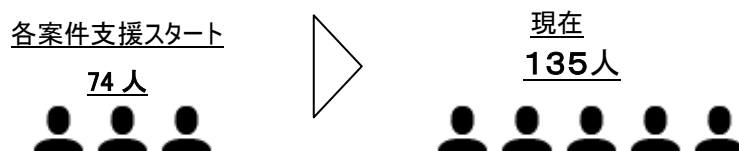
また前述しましたが、現在までの経験とノウハウを熊本からの震災復興支援、および地域創支援にも対応すべく、体制を整えながら運営しております。今後ともご支援のほどなにとぞよろしくお願いいたします。

【これまでの投資効果】

<売上高の拡大(現在までの支援先13件合計)>



<雇用の維持と拡大(昨年度までの支援先12件合計)>



<現在までに支援先が金融支援や助成金、義捐金等をいただいた金額合計>

13億4300万円

皆様のご支援、各支援先のご努力、追加支援の輪の拡大の循環で、現在まで支援先合計で上記のような効果が表れてきております。その他定性的な各案件の地域貢献含む共益投資の広がりには各件のご報告をご参照ください。

○今後の方針 検討中案件について

【目的・目指すゴールと現状】

基金のスタート時点では、数年間(当初想定は2016年まで)はいただいた寄付を原資として、東北被災地域における事業再生および起業に資金支援および、人的なサポートを実施継続することを想定しておりました。支援スタートから6年を経た現在までの資金支援実行先は14件となり、昨年度1件の事業精算がございましたが、13件の支援先が現在まで事業を継続していただき、皆様の一定の事業拡大と地元雇用の確保および拡大に微力ながら寄与させていただけたものと考えております。

またもう一つの基金設立の目的の柱である、二度の資金循環の実行に関しましても、今年度6件700万円(昨年から累計で8件800万円)のご償還をいただきましたので、他の案件も含めまして今後も可能な限り当初の資金支援分までの償還を受け、最終的には経営陣および地元資本にエグジットすることで、当該事業者が地元資本の地元の人が運営する会社として持続していくことを目指しております。償還の最大期間は10年を想定しており、その期間中に償還をうけ、東北の支援先から償還を受けた資金は、その時点で東北にて活動されている団体に助成いたします。具体的方針はNPO法人さなぶり様と検討を重ねて確定しましたので、2018年度に二度目の資金循環としての助成を実行する準備が整いました。支援先の皆様のご努力により、当初の目的の一部が達成できるものと考えております。引き続きなにとぞよろしくお願いいたします。

【今後の課題】

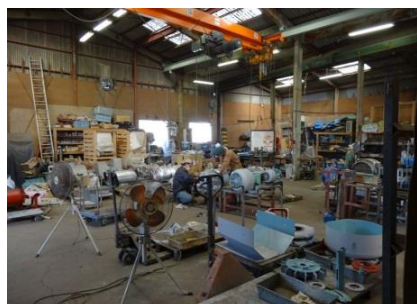
東北においては、震災から7年を経過した時点において、社会全体の関心が一層低下している傾向にあります。インフラの復興は達成されたものと考えておりますが、本当の意味での復興を超えた創造的な地域基盤の復興はまだまだであると考えており、地域全体の復興の達成をめざして、継続支援を実施していく所存です。また熊本における支援を開始いたしました。現在までの経験をノウハウを活用して、新しい支援先のサポートを開始してまいり所存です。それぞれ支援先の事業運営方針をもとにした必要なサポートを実行することを今後も続けてまいります。

【今後の計画】

東北においては、引き続きご償還を実行いただき、2018年度に具体的な二度の資金循環の実行をいたします。

また、「熊本基金」における支援先3件の具体的支援の実行を開始してまいります。それに加えて、昨年度災害復興支援スキームを地域創生スキームとして活用すべく、神石高原町の基金の設立支援を実行いたしました。それらのノウハウを活用し、共益投資の環を拡大、各種支援のプラットフォームとなれるべく継続努力してまいります。

また新しい取組ができましたら、ご報告させていただきます。



○基金のこれまでの取組み

～2011年～

- 11月 公益社団法人 Civic Force 様よりご寄付を頂戴して
一般財団法人 東北共益投資基金設立
- 12月 一号案件東北基金支援実行発表

～2012年～

- 2月 「ユニクロ 復興応援プロジェクト」
協働パートナー決定

東北地域における資金支援および経営支援の実行継続

～2015年～

- 3月 一四号案件支援実行発表

～2016年～

- 4月 「共益投資基金JAPAN」に名称および体制を変更

～2017年～

- 3月 Civic Force 様より依頼を受け熊本地震の被災調査を実施
- 6月 Civic Force 様から追加でご寄付頂戴し「熊本基金」設立。

熊本基金設立以降、熊本地域にて3件支援実行
(案件詳細は後述)

- 6月 神石高原町にて「神石高原地域創造チャレンジ基金」の
設立に関する調査を受託して実施

～2018年～

- 9月 公益財団法人地域創造基金さなぶり様と連携しての
東北地域における二度目の資金循環の
実行方針を決定(2019年度に実行予定)



投資先地域

東北地域



熊本地域



○東北支援先の状況報告

雄勝硯協同組合（宮城県石巻市）

～生まれ変わる町の復興とともに歩み続ける～

概要

代表者：澤村 文雄(理事長) 業 種：工芸品製作
支援策：資金+アドバイザー派遣 投資額：3,000万円
サイト：<http://www.ogatsu-suzuri.jp/>



高さ 5m を超える防潮堤の建設をはじめ、雄勝町の復興都市計画も随分と具現化が進み、町の景観は震災前の面影はほとんどないほどに変化し、まったく新しい町の誕生を感じさせています。

雄勝硯組合の活動としては、2年に1度開催される『文房四宝展』に参加し、「紙（鳥取／今回開催地）・筆（広島）・墨（三重）・硯（石巻）」の4産地が集い、書道文化の継承・啓蒙に取り組みました。

また、今年が2回目となる仙台放送主催の「東北・みやぎ復興マラソン」において、昨年に続き完走者記念品として雄勝石メダルを採用して頂くことができました。メダルを手にした完走者の方々はもちろん、仙台放送様をはじめとする関係各所にて非常に好評をいただきました。今後も継続採用頂けるよう、引き続き活動してまいります。

理事長・澤村文雄氏 ひとこと

震災から7年半、依然たくさんの方々からのお力添えを頂きつつ、雄勝町も新しい町として生まれ変わろうとしております。雄勝町復興の象徴の1つでもある、「伝統産業会館(雄勝硯組合も入居予定)」建設の計画も着々と形になってきております。

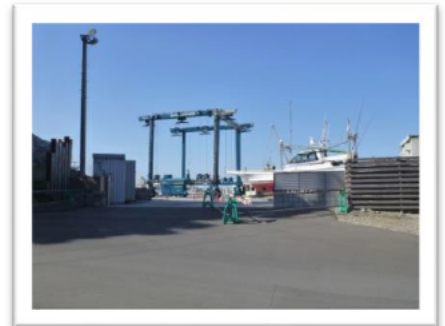
硯組合としても、その活動自体が地域貢献になることを念頭に置きつつ町の復興とともに歩んでまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

佐藤造船所（宮城県石巻市）

～年間通じての事業活動再開し更なる復興を目指す～

概要

代表者：佐藤 文彦（代表取締役） 業 種：特殊船舶の修理・整備
支援策：資金 投資額：2,000万円



皆様、大変お世話になっております。

今年はお蔭様で、ようやく一年を通じて事業活動が行える状況と成り、今の自分たちの実力を確認出来るひとつの節目を迎えることが出来ました。震災から7年半が経過する今日まで多くの皆様のお力添えがあったからこそと、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

今後は造船所施設設備の機能回復は1/3でとどまっている中、現状ある課題と真摯に向き合い、この理念の下、必ず事業の復興に繋いでいきます。

- 一、私達は、自由な発想と行動力で、安全で楽しい、命輝く船文化の創造に挑戦します。
- 一、私達は、船を通じ、自然と共に、心豊かに生きる、社会創りに役立つ企業を目指します。
- 一、私達は、共に学び成長し、力を合わせ、未来を切り拓き、夢を実現します。

これからも先代の想いを胸に事業目的(経営理念)の遂行実現に最善を尽くしてまいります。

代表取締役・佐藤文彦氏 ひとこと

今日まで多くの皆様に物心両面で支えて頂き本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

” 想いは必ずカタチになる ” 最善を尽くします。

及川電機 (宮城県石巻市)

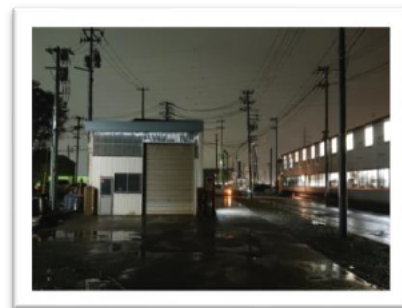
～新工場移転により作業効率向上・受注数も伸びる～

概要

代表者: 及川 雅貴(代表取締役) 業種: 船舶電気機器・艀装

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1800万円

<https://www.facebook.com/odk1721/>



(区画整理により半分の大きさになった旧工場)

前期、平成二十九年度も過去二年に続く苦境の年となりました。人材面における問題については新入社員二名を得ることができ、また担当の見直しなどにより、改善された部分もあったのですが、やはり定着が難しく、今年の夏に新入社員の一人が退職することになってしまいました。受注面につきましては、前年度は横這いの状況が続いておりましたが、今期に入って船舶修繕が伸び、やや上向いてきたところです。

昨年は、弊社旧工場の一部が市の区画整理事業で取り壊すこととなり、新工場への業務移転を急ぐこととなりましたが、結果として新工場での作業習熟が早まり、作業効率が向上することに繋がりました。

今後は、新工場を十二分に使いこなして作業の効率化を更に進め、電動機整備等の受注数を伸ばしていきたいと考えております。



社長・及川雅貴氏 ひとこと

昨年同様、日々課題に向き合う一年でした。代表取締役を交代し、様々な場所に顔を出す機会が増えましたが、ご縁をいただいた皆様のお力添えのありがたさを強く感じております。

トラスト (宮城県亶理郡)

～新規受注増加し近隣からの雇用も推進～

概要

代表者: 丸子 孝市(代表取締役) 業種: 電子回路基板製造業

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1000万円

サイト: <http://www.trustweb.co.jp/>



当社は、宮城県亶理郡でプリント基板関連の事業に従事しています。

震災により工場が多大な被害を受けましたが、プリント基盤製造装置の販売事業に加えて表面実装事業にも展開してきました。東北地方のエレクトロニクス業界の長期的な低迷の影響で、厳しい経営状態が続きましたが、本年より新規受注も増加し、業績は改善傾向にあります。

震災後近隣からの従業員の雇用も進め、地域に貢献する企業です。



社長・丸子孝市氏 ひとこと

震災以降、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。新事業である表面実装事業は苦戦を強いられましたが、新規受注も広がりつつあり、経営状態も改善しつつあります。引き続き地域に貢献すべく向上すべく経営努力を図ってまいりますので、引き続きご支援宜しくお願い致します。

女川町宿泊村旅館組合 （宮城県牡鹿郡女川町） ～顧客満足度向上に努め地域の魅力発信も目指す～

概要

代表者：佐々木 里子（理事長） 業 種： 宿泊施設運営
支援策： 資金 投資額： 500 万円
サイト： <http://hotel-elfaro.com/>



2017 年 8 月に移転・リニューアルオープンした当ホテルも本年 8 月を以て通期 1 年を新天地で過ごす事が出来ました。宿泊事情に目を移せば、被災地における復興工事関連の需要はほとんど無くなりつつある一方で、ハイシーズンにおける観光需要は依然伸び続けています。

今後は徹底した客室清掃(クリンネス)とおもてなし精神を統一したホテルを目指し、お越し頂いたお客様にご満足頂けるよう努めていくと同時に、女川町を起点とした石巻市広域の魅力ある場所や食べ物などをエルファロから発信していく、ホテルコンセプトである「アウトドア・リビング」を昇華させていきます。

近年全国的に話題となっている外国人旅行客集客(=インバウンド)対策については自社 HP を多言語化できる QR コードを作成し、いつ何時実際に外国の方がお見えになっても対応出来るよう、進めています。



理事長・佐々木里子氏 ひとこと

夏は施設内で BBQ やスウェーデントーチでの焚き火でほっこり。近くに念願の海水浴場がオープンし、アクセスも容易に。女川湾近辺は実は釣りのメッカだったりもします。存分に遊んで満喫した身体をどうぞ温もりのあるお部屋でお休み下さい。

釜石ヒカリフーズ （岩手県釜石市）

～引き続きの順調な取引先増加および雇用創出～

概要

代表者：佐藤 正一（代表取締役） 業 種： 水産加工業
支援策： 出資+アドバイザー派遣 投資額： 1300 万円
サイト： <http://www.hikarifoods.jp/>



当社は、2011 年 8 月に岩手県で震災後第 1 号の新規水産加工企業として岩手県釜石市に設立されました。最先端の冷凍設備と加工技術により、岩手県釜石産のタコ、イカ、鮭、ワカメなどを主原料とした商品の加工・販売を行っています。また JST、高知工科大学との「冷蔵用スラリーアイス」や岩手大学とのなどの研究開発事業も行っています。



社長・佐藤正一氏 ひとこと

震災以降、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。おかげさまで、各生協、JA、大手外食チェーンを始めとする 40 社以上の取引先を抱える業容となり、アワビの肝ソースなど最終商品の開発も行うようになりました。従業員の方々が仕事と家庭を両立できるようフレックスタイム制度も導入し、働きやすい環境を提供する企業として、現在約 30 名の雇用創出につながっています。今後は事業の拡大に伴い、第二工場建設も視野に入れて参ります。

三陸いりや水産 (岩手県釜石市)

～商品発売や産品活用など地域発展の貢献を目指す～

概要

代表者: 宮崎 洋之 (代表取締役) 業 種: 水産加工業
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1000 万円
サイト: <http://www.sanriku-ilya.jp/>



当社は、震災後岩手県釜石市で起業された水産加工会社です。地元産の地魚を利用した「三陸ブイヤベース」などの商品開発や健康食品材料の鮭白子の卸売を行っています。地元企業や漁業者と連携して地元産品を使った六次化商品開発のため KAMAROQ 株式会社を設立し、「釜石海まん」などの商品を発売しています。

社長・宮崎洋之氏 ひとこと

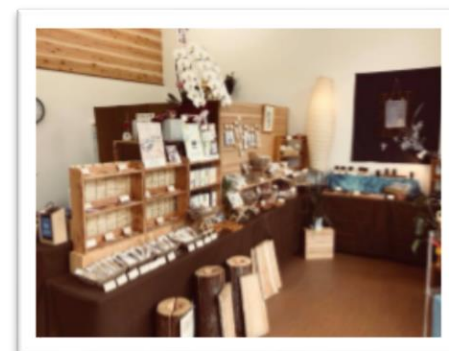
震災以降、多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。当社は地元産の良質な鮭から取れる白子を使った健康食品材料の提供を主事業にしながら、地元の水産物を活用して様々な商品開発を手がけています。地元企業と6次化合併事業である KAMAROQ 株式会社との協業や、地元の水産会社との連携を通じて、地域の経済に貢献していきます。今後ともよろしくお願いいたします。

オナガワファクトリー (宮城県牡鹿郡女川町)

～工房移転により売上急上昇するも今後の変化対応も視野に～

概要

代表者: 湯浅 輝樹 (代表取締役) 業 種: 工芸品開発・販売
支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 500 万円
サイト: <http://aura.ocnk.net/>



2017年の終わり頃、弊社所在地所有者の自己破産による債権者からの立ち退き要請があり、工房と事務スペースが確保可能な移転先を探すことに奔走しておりました。その矢先、「このような経営状況の急な変化に対応が遅れる業者との取引はできない」との事で、前年報告した(株)おもちゃのこまーむとの共同開発商品の販売を取り消しにされ、大量の商品の廃棄を余儀なくされました。

同時期の売上は急激に落ち込んでおり、廃業も検討し始めたころ、女川駅前の「シーパルピア商店街」に空き物件が出てきて、移転できることになりました。それに伴い、国民政策金融公庫から200万円の融資を受け、4月より駅前に移転。観光客の来店客が、多いときで1日300人を超え、既存商品が土産品として評価をいただき、売り上げが急上昇。スタッフの士気も高まり、現在は販売スタッフを2名増やして頑張っております。

代表取締役・湯浅輝樹氏 ひとこと

今回の移転により売上も持ち直しましたが、経営状況の急激な変化に対応できるよう、様々なシミュレーションを怠らないよう常に心掛け、今後の新しいまちづくりに貢献できるよう尽力してまいります

TATAKIAGE Japan (福島県いわき市)

～主力事業も地域に根付き、更なる地域活性化を目指す～

概要

代表者: 小野寺 孝晃 (理事町) 業 種: 起業家育成、
ワーキングスペース運営

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 500 万円

サイト:<http://www.tatakiage.jp/> <http://hamacom.jp/>



(いわきのハワイアンジュエリー作家さんのブランド化の課題を地域の皆で解決する「がっつり浜魂 vol2」の様)

当社は、『地域でアクションを起こすプレイヤーの「次の一歩」を支援する場と仕組みを提供することで、地域のプレイヤーを育て、地域から日本を変えていく団体』です。基金からの資金援助のもと、コワーキングスペースを拠点に、様々な活動支援やプロジェクトを実施しております。

今期で 7 期目を迎えますが、「ひとつくり」を掲げて実施してきた、主力事業の「浜魂」(ピッチイベント)が地域に根付き、いわきを中心に活動する地域づくりコーディネータ機関として評価され、最近では、国や市と連携したプロジェクトも増えてまいりました。

現在、当社の会員数は、65 名、コワーキングスペースは、年間延べ 480 人の方に活用いただいております。今後も、福島県沿岸地域の経済活性化に寄与する、事業、企画に取り組んでいく所存です。今後とも、応援の程よろしくお願ひ致します。

🗨️ 理事長・小野寺孝晃氏 ひとこと

新しいことにチャレンジしたい方がたくさんいる地域と確信しております。地域に新しいコンテンツをどんどん作り出せる団体に成長していきたいと思ひます。

有限会社ドウビー・ソーシャル事業部(旧被災事業所復興支援室)(宮城県石巻市)

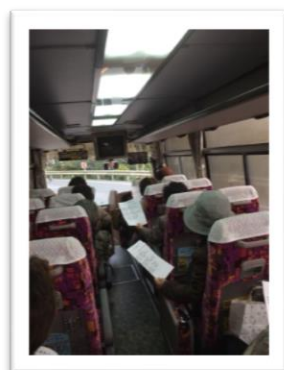
～太陽光発電事業での売上好調により支援先増やす～

概要

代表者: 古藤野 智 (代表理事) 業 種: 太陽光発電事業

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 300 万円

サイト:<https://www.facebook.com/saiseinomatikikin>



(日和なごみ会の遠征費を支援)

東日本大震災から7年半が経過し、被災した事業所も表向きは平穏を取り戻しております。しかしながら復興特需も一巡し、石巻市も震災前の景気に戻ってきました。今後は企業の実力のあるなしで明暗が分かれていきそうです。お陰さまで、「再生の街プロジェクト」の参加企業は安定した企業活動を続け、屋根に載せた太陽光発電所も変わらぬ発電を行っております。1企業 10kwの太陽光パネルは年間5～60万円の収益を生み出し、微力ながら企業の収入に貢献していくと思われまひます。

「再生の街プロジェクト」は2017年の12月に石巻市日和が丘のNPO「日和なごみ会」に支援を行いました。「日和なごみ会」は地元の高齢者を対象に定期的に催しを開催し、地域の活性化に貢献している団体です。

これからも被災地の草の根の活動に支援していく予定です。

🗨️ 代表パートナー・古藤野智氏 ひとこと

太陽光発電のように着実な活動をしていきたいと思ひています！

オンザロード (宮城県石巻市)

～施設利用による人材交流を生み地元活性化に寄与～

概要

代表者: 高橋 歩 (代表理事) 業 種: ゲストハウス・コミュニティスペース運営

支援策: 資金+アドバイザー派遣 投資額: 1000 万円

サイト: <https://otr.or.jp/>



オンザロードが石巻で活動を始めた2011年4月より、泥だし・ガレキ撤去を担当してきた石巻市渡波地区。その場所で、私たちと復興へ向けて活動を続けてきた地元の方々や仲間達と共に、地域再生の象徴となるような復興複合施設「ロングビーチハウス」をオープンして4年が経ちました。現在は、通常営業の他にも定期的にイベント開催したり、イベントスペースとして活用したりと、地元の方々に親しまれています。そしてゲストハウスに泊まりに来た県外のお客様とレストランに食事に来た地元のお客様が交流できる場所としても、沢山の出会いが生まれています。

イベント例: 料理教室・カレー教室・牡鹿半島での定置網漁体験・地元の海苔漁師さんの工場見学・地元の牡蠣漁師さんに行く牡蠣漁体験石巻飲食店BBQ交流会ほか

ロングビーチハウス現地スタッフ一同 ひとこと

『津波が入ったこの場所を、人が溢れ、笑顔が溢れる場所にしていきたい!』このような思いで始まったロングビーチハウスプロジェクト。現在は地元スタッフも増え、県外スタッフと共に石巻を盛り上げるべく、日々奮闘しています。

『本当の意味で地域に寄り添った、地元の方々の憩いの場にして頂きたい』『ここ渡波の街に県内外の方々が集い、石巻について見て聞いて、地元の美味しい食材を食べられる場を提供したい』『地元の方と県内外の方が出会い・交流できる場にしていきたい』

そんな私達スタッフの想いと、石巻の魅力をもっと発信していきます。そして、震災を風化させないことで防災・減災に繋がるよう、ロングビーチハウスへ訪れる方々へ伝えていきたいと思えます。震災から7年。オンザロードのこれまでの活動を活かし、日本中・世界中の方が遊びに来て地元の方と一緒に楽しんでもらえる場を目指します。

株式会社カシワダイリンクス (広島県神石郡)

～念願の牛乳製造業取得し今後の出荷拡大に期待～

概要

代表者: 相馬 幸香 (代表取締役) 業 種: 牧場経営・乳加工品製造・販売事業

支援策: 資金 投資額: 2,600 万円

サイト: <http://www.somas-ranch.com>



皆様からご支援を頂き初める事が出来ました酪農事業も今年で4年目となりました。本年念願の牛乳製造業を取得することができました。これで皆様に美味しい牛乳を飲んでいただけるようになりました。まずは地元の宿泊施設に卸させていただきます。これからお店にも出荷できるようにしていく予定です。牧場の牛さんは本当に優しい子ばかりで子供達とも一緒に遊んでくれています。

牧場長・相馬行胤氏 ひとこと

ガンちゃん(牛さんの名前です)の背中では気持ちが良いのです (写真より)

株式会社 dreamLab （福島県いわき市）

～3種の教室運営で子どもの夢を応援～

概要

代表者：小川 智美 業 種：学童保育事業（人材育成教育事業）

支援策：資金 投資額：400万円

サイト：<http://d-l.jp/>



現在、ドリームラボでは、アフタースクール、英会話教室、ロボットプログラミング教室を運営しています。子どもの自己肯定感を育むため、私たちは、「安心して失敗できる場」を提供しています。子どもたちは、その環境の中で、「挑戦する→小さな成功体験を積む→自信がつく」というサイクルをぐるぐるまわし、日々、成長しています。アフタースクールでは、ごみ拾い、遠足、ハロウィンなどのイベントを通して、地域社会と交流することができるようになってきました。また、ロボットプログラミング教室では、WROという世界的な大会に参加し、全国大会に出場することはできませんでしたが、次の目標に向かって、それぞれの選手が大きく成長できる経験をしました。これからも、ドリームラボは、子どもたちの夢を応援していきます！



代表取締役・小川智美氏 ひとこと

これからもドリームラボは、子どもたちとともに進化していきます。

○「熊本基金」各支援先の状況報告

①草原再生オペレーター組合

(熊本県阿蘇市)

〈概要〉

- ・代表者: 組合長 井手孝義
(事務局長 NPO法人九州バイオマスフォーラム 中坊 真)
- ・業務内容: 未利用野草の利活用による地域活性化と草原再生
- ・支援策: 資金+アドバイス
- ・投資額: 300万円
- ・サイト: <http://kbf.sub.jp/yasou/>

草原再生オペレーター組合は、元々阿蘇の草原で未利用となっている野草について、阿蘇市と協働でNEDOの委託事業により「草原の野草の利活用実験事業」の野草を供給する組織として発足したが、実験事業は平成21年に終了。当時はエネルギーの買い取り制度等もなかったため、阿蘇市単独でのエネルギー事業継続は断念したが、収穫した野草をマテリアル(素材)利用による事業継続を図るべく、パンフレットやホームページ等による情報発信で、需要創出と販売を行い、平成22年度以降、売上を伸ばしてきた。

基金 JAPANでは、熊本震災からの産業復興に貢献すべく、熊本県および阿蘇市の基幹産業である農業と観光業の基盤を支える雄大な草原の保全と活用に寄与する当組合への支援を決定。これにより事業拡大のために必要不可欠であった採草機器(タカキロールベラー・クーンディスクモア)を平成31年2月に導入できることとなり、今後より効率的な採草が可能となる。近々、農業法人化も検討しており、期限より早い返済も期待できる他、世界農業遺産ビジネスプランコンテストの企画など、償還後の新たな支援先候補となる可能性も高い有望な新規事業者の発掘も行っている。

代表者 ひとこと
(事務局長・中坊真氏)

おかげさまで、今は、口コミでお客様も広がってきており、生産量と供給量のバランスも取れている状態です。機械購入によりさらに生産性の向上をはかることができるので、事業の見通しも順調で、農業法人化を検討しています。早期償還を目指して尽力して参ります。



株式会社山都でしか

(熊本県上益城郡山都町)

〈概要〉

- ・代表者:代表取締役社長 橋本龍生
- ・業務内容:山都町で農業・観光で事業展開したいと考える事業者をつなぐ各種事業展開
- ・支援策:資金+アドバイス
- ・投資額:150万円
- ・サイト: <https://www.yamatodesica.com/>

熊本県東部の山間地に位置する、人口 1.5 万人の自治体である山都町は、過疎及び少子高齢化が進む地域であるが、平成 28 年の熊本震災により、民間住宅の多大な被害の他、山都町のシンボルであり、町随一の観光資源である「通潤橋」も大きな被害を受けた。同年の 6 月には水害も起こったことで、農地・農業用施設の被害は 2,600 箇所、復旧費 36 億円と県内で最も大きな被害となった。そんな中、県内外から多くのボランティアが駆けつけてくれ、「山都のファンになった」という声を多々いただくことが住民の希望となったが、そうしたファン達が山都町と継続的につながったり、交流する仕組みがないことから、近隣の阿蘇や五ヶ瀬町に流れていった観光客も多かった。そこで、山都町の資源のデータベース化、ファンを醸成するための各種企画と徹底した顧客管理、情報発信のための費用として支援を決定。支援実行は今後となるが、ファン醸成のための企画は現在も積極的に行われており、最近では、平成 25 年に解散したファンキーモンキーベイビーズのボーカル加藤氏を呼んでのライブや、ホテル日航熊本とコラボした食育イベント、地元野菜を使ったオリジナル商品や農家民泊に関する企画なども立ち上がっている。一方で人手不足も大きな課題であり、本支援により、交流人口の増加が促進され、その一助となることも期待される。

代表者 ひとこと (取締役副社長・八田祥吾氏)

現在、山都でしかは、町の観光施策を中心となり担い、様々なコラボイベントや Facebook での情報発信も積極的に行っています。その他、オリジナル商品づくりなどにも力を入れています。人手不足から、事務局が整っていないことなどが課題ながら、今回支援いただく資金をデータベース整理に活用し、山都のファンづくりを盛り上げていきたいと思っております。



③株式会社きらり. コーポレーション

(熊本県熊本市)

〈概要〉

- ・代表者: 代表取締役社長 塚本 薫
- ・業務内容: 女性の求職支援(定着支援や中小企業とのマッチングインターンシップ)
- ・支援策: 資金+アドバイス
- ・投資額: 150万円
- ・サイト: <https://www.kirari-co.info/mamahataraku>

熊本震災等の影響で、人口転出県全国ワースト2位となった熊本県。しかしその中でも女性は男性に比べて県内にとどまっている状況もあることから、きらり.コーポレーションではそこに焦点を当て、女性の求職支援を実行し、女性活用及び地域の産業活動の活性化を目指した「ママハタラクプロジェクト」を開始している。基金 JAPAN ではシステム関連の運営費として資金支援を実施。

現在、プロジェクトの登録者は80名ほどいるが、中小企業でインターンシップができる会社は、トレーナー不足もありなかなか少ない状況となっている。また、本プロジェクトをどこでマネタイズしていくかが目下の課題となっており、今後は、現在無料で行っているセミナーを有料化することや、一部分の支援だけでなく、補助金コンサル全体を担えるようにするなど、ビジネスとして軌道にのせていくためのアドバイス支援もより行っていく予定である。

代表者 ひとこと (代表取締役・塚本 薫氏)

熊本には女性起業家が多いことにも表れているように、働きたいという意欲を持った女性が多くいます。でも、出産等で一度職場を離れると、社会復帰を不安に思う人も多くいる。そんな女性たちを応援するインターンシップ等をもっと実現していきたいと思っていますが、まだまだ根付いていません。マネタイズも課題ですが、アドバイスをいただきながら、頑張っていきたいと思っています。



○2018 年度 収支報告、助成金内容

共益投資基金 JAPAN の収支報告をします。経理処理は、外部税理士によって行われ、その正確性、公正性については、理事会および評議員会、監事によって確認をされています。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

区分・項目	2018 年度実績
人件費	76
事務局の運営に対応する人件費	12
外部専門家による調査や各種支援の委託費	62
旅費交通費	31
広報活動・WEB 管理費	3
事務所費	32
水道光熱費・家賃等	25
通信費・備品費	7
租税公課・支払寄付金・雑費等	114
合計	256

(単位:万円)

弊団体に対して、設立当初より合計 500 万円以上のご寄付をいただいた法人・個人は、以下の通りです。ご支援、誠にありがとうございます。

2011 年からの合計額

- ・公益社団法人 Civic Force: 1 億 7,215 万円 (2017 年度 計 1,600 万円追加でのご支援)
- ・九州郵便局長協会: 3,000 万円
- ・株式会社 ユニコロ: 6,220 万円 (ユニクロ復興応援プロジェクトより)

【一般財団法人 共益投資基金 JAPAN】

所在地 東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12 富ヶ谷小川ビル 2 階

問合わせ TEL:03-3466-3676、 e-mail:info@kyoueki.jp

基金ホームページ <http://kyoueki.jp/>

<参考> 共益投資基金 JAPAN のご紹介

被災地の中小の事業者の再起においては、金融機関や行政の資金供給だけでは十分に答えられない現実があります。サプライチェーンやバリューチェーンが大きな打撃を受ける中、旧来の産業の単なる復旧を超えた、地域のつながりを新生する新たな地場産業モデルを創出していく必要があります。

2011年の東日本大震災をきっかけに設立した「東北共益投資基金」は、被災された企業の皆さんにビジネススキルとともに資金的な支援の手を差し伸べることで復興を具体的に支援し、数年後に事業が順調に立ち上がって可能な限り償還していただいたものを原資として地域で活動するNPOへ助成する「二度の資金循環」を目的に立ち上がり、累計17案件1.76億円の支援を実施いたしております。

2016年より生まれ変わった「基金ジャパン」は、大規模被災地域における復興支援の仕組み「共益投資」のノウハウを他の地域にも展開し、災害大国の日本における地域経済の復興に寄与して新しい地域経済をリードする共益事業を支援してまいります。

■基金のフレームワーク



1. 新たな地場産業モデル創出支援

新しい地域経済をリードする「共益事業」に積極投資し、(資本性のある資金の提供)、コミュニティ新生も視野に入れた地域活動の広がりをめざします

2. バリューアップ支援

資金の提供だけではなく、地域固有の価値を發揮できるよう、ノウハウ提供・経営支援でバリューアップを図ります

3. 二度の資金循環

「共益経済」の実現に向けて、5年をめぐりに地元へ資本をパトタッチ、償還された資金を次の課題へ再投資します(NPO等への助成)

第7事業年度
(平成30年度)

決算報告書

一般財団法人 共益投資基金JAPAN

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
貸借対照表
平成30年9月30日現在

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	10,473,458		
未収入金	0		
仮払金	0		
流動資産合計		10,473,458	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0		
(2) 特定資産			
特定資産合計	0		
(3) その他固定資産			
投資有価証券	169,500,000		
差入保証金	419,509		
その他固定資産合計	169,919,509		
固定資産合計		169,919,509	
資産合計			180,392,967
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	457,782		
預り金	13,756		
流動負債合計		471,538	
2. 固定負債			
固定負債合計	0		
負債合計		0	471,538
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産		3,000,000	
2. 一般正味財産			
一般正味財産		176,921,429	
正味財産合計			179,921,429
負債及び正味財産合計			180,392,967

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
正味財産増減計算書
平成29年10月1日から平成30年9月30日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 事業収入		
業務受託収入		0
① 受取寄付金		
受取寄付金		7,000,000
② 受取助成金		
受取助成金		0
③ 雑収益		
受取利息	62	
雑収益	0	62
経常収益計		7,000,062
(2) 経常費用		
④ 事業費		
委託費	237,114	
旅費交通費	253,423	
通信費	3,847	
支払手数料	1,944	
事業費計		496,328
⑤ 管理費		
給与手当	141,375	
委託費	386,685	
旅費交通費	14,981	
通信費	72,980	
賃借料	227,556	
光熱水料費	18,521	
消耗品費	631	
租税公課	82,547	
広報活動費	26,870	
支払手数料	7,128	
雑費	62,278	
管理費計		1,041,552
経常費用計		1,537,880
当期経常増減額		5,462,182
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益計	0	0
(2) 経常外費用		
貸倒損失	0	0
経常外費用計		0
当期経常外増減額		0
当期一般正味財産増減額		5,462,182
一般正味財産期首残高		171,459,247
一般正味財産期末残高		176,921,429
II 指定正味財産増減の部		
指定正味財産期首残高		3,000,000
指定正味財産期末残高		3,000,000
III 正味財産期末残高		179,921,429

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券 …… 時価のないもの：取得原価法によっている。

(2) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
収支計算書
平成29年10月1日から平成30年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 事業収入			
業務受託収入		0	0
① 受取寄付金収入			
受取寄付金収入		7,000,000	-7,000,000
② 受取助成金収入			
受取助成金収入		0	0
③ 雑収入			
受取利息収入		62	-62
雑収入		0	0
事業活動収入計	0	7,000,062	-7,000,062
2. 事業活動支出			
④ 事業費支出			
投資有価証券取得支出		5,500,000	-5,500,000
委託費支出		237,114	-237,114
旅費交通費支出		253,423	-253,423
通信費支出		3,847	-3,847
支払手数料支出		1,944	-1,944
事業費支出計	0	5,996,328	-5,996,328
⑤ 管理費支出			
給与手当支出		141,375	-141,375
委託費支出		386,685	-386,685
旅費交通費支出		14,981	-14,981
通信費支出		72,980	-72,980
貸借料支出		227,556	-227,556
光熱水料費支出		18,521	-18,521
消耗品費支出		631	-631
租税公課支出		82,547	-82,547
広報活動費支出		26,870	-26,870
支払手数料支出		7,128	-7,128
雑費支出		62,278	-62,278
管理費支出計	0	1,041,552	-1,041,552
事業活動支出計	0	7,037,880	-7,037,880
事業活動収支差額	0	-37,818	37,818
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
① 償還収入		0	0
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	0	-37,818	37,818
前期繰越収支差額		10,039,738	-10,039,738
次期繰越収支差額		10,001,920	-10,001,920

一般財団法人 共益投資基金JAPAN

財産目録

平成30年9月30日現在

(単位:円)

科目		金額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	現金手許有高	0	
	三井住友銀行/麴町支店	10,473,458	10,473,458
未収入金	神石高原町 業務委託収入		0
仮払金	事業所費未精算分		0
	流動資産合計		10,473,458
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
	基本財産合計		0
(2) 特定資産			
	特定資産合計		0
(3) その他固定資産			
投資有価証券	㈱佐藤造船所 出資金	20,000,000	
	及川電機㈱ 第1回私募債	18,000,000	
	雄勝硯生産販売協同組合 第1回私募債	30,000,000	
	釜石ヒカリフーズ㈱ 出資金	13,000,000	
	㈱トラスト 出資金	10,000,000	
	三陸いりや水産 出資金	10,000,000	
	女川町宿泊村協同組合 第1回私募債	5,000,000	
	onagawa factory 出資金	5,000,000	
	TATAKIAGE Japan コワーキングスペース事業支援債	4,500,000	
	再生の街プロジェクト 第1回私募債	2,500,000	
	オン・ザ・ロード 第1回私募債	10,000,000	
	㈱カシワダイリンクス 出資金	28,000,000	
	㈱神石高原ティアガルテン出資金	4,000,000	
	dreamLab 出資金	4,000,000	
	草原再生オペレーター組合 第1回私募債	3,000,000	
	㈱きらりコーポレーション 出資金	1,500,000	
	社団法人みらい財団 設立準備金	1,000,000	169,500,000
差入保証金	富ヶ谷事務所敷金		419,509
	その他固定資産合計		169,919,509
	固定資産合計		169,919,509
	資産合計		180,392,967
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	事務職員人件費、顧問料等の未払い		457,782
預り金	源泉所得税		13,756
	流動負債合計		471,538
2. 固定負債			
	固定負債合計		0
	負債合計		471,538
III 正味財産の部			
正味財産			
			179,921,429

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、前払費用、未払金及び預り金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位:円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	7,542,327	10,473,458
未収入金	0	0
仮払金	2,630	0
合計	10,514,957	10,473,458
未払金	472,139	457,782
預り金	3,080	13,756
合計	475,219	471,538
次期繰越収支差額	10,039,738	10,001,920

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
 正味財産増減計算書（共通）
 平成29年10月1日から平成30年9月30日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 事業収入		
業務受託収入		0
① 受取寄付金		
受取寄付金		7,000,000
② 受取助成金		
受取助成金		0
③ 雑収益		
受取利息	62	
雑収益	0	62
経常収益計		7,000,062
(2) 経常費用		
④ 事業費		
委託費	0	
旅費交通費	53,550	
通信費	3,847	
支払手数料	1,404	
事業費計		58,801
⑤ 管理費		
給与手当	141,375	
委託費	146,685	
旅費交通費	14,981	
通信費	72,324	
賃借料	227,556	
光熱水料費	18,521	
消耗品費	631	
租税公課	82,547	
広報活動費	26,870	
支払手数料	5,292	
雑費	62,278	
管理費計		799,060
経常費用計		857,861
当期経常増減額		6,142,201
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益計	0	0
(2) 経常外費用		
貸倒損失	0	
経常外費用計		0
当期経常外増減額		0
当期一般正味財産増減額		6,142,201

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
 正味財産増減計算書（熊本）
 平成29年10月1日から平成30年9月30日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 事業収入		
業務受託収入		0
① 受取寄付金		
受取寄付金		0
② 受取助成金		
受取助成金		0
③ 雑収益		
受取利息	0	
雑収益	0	0
経常収益計		0
(2) 経常費用		
④ 事業費		
委託費	237,114	
旅費交通費	155,693	
通信費	0	
支払手数料	540	
事業費計		393,347
⑤ 管理費		
給与手当	0	
委託費	0	
旅費交通費	0	
通信費	82	
賃借料	0	
光熱水料費	0	
消耗品費	0	
租税公課	0	
広報活動費	0	
支払手数料	0	
雑費	0	
管理費計		82
経常費用計		393,429
当期経常増減額		△ 393,429
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益計		0
(2) 経常外費用		
貸倒損失	0	
経常外費用計		0
当期経常外増減額		0
当期一般正味財産増減額		△ 393,429

一般財団法人 共益投資基金JAPAN
 正味財産増減計算書（東北）
 平成29年10月1日から平成30年9月30日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 事業収入		
業務受託収入		0
① 受取寄付金		
受取寄付金		0
② 受取助成金		
受取助成金		0
③ 雑収益		
受取利息	0	
雑収益	0	0
経常収益計		0
(2) 経常費用		
④ 事業費		
委託費	0	
旅費交通費	44,180	
通信費	0	
支払手数料	0	
事業費計		44,180
⑤ 管理費		
給与手当	0	
委託費	240,000	
旅費交通費	0	
通信費	0	
賃借料	0	
光熱水料費	0	
消耗品費	0	
租税公課	0	
広報活動費	0	
支払手数料	1,836	
雑費	0	
管理費計		241,836
経常費用計		286,016
当期経常増減額		△ 286,016
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益計		0
(2) 経常外費用		
貸倒損失	0	
経常外費用計		0
当期経常外増減額		0
当期一般正味財産増減額		△ 286,016